

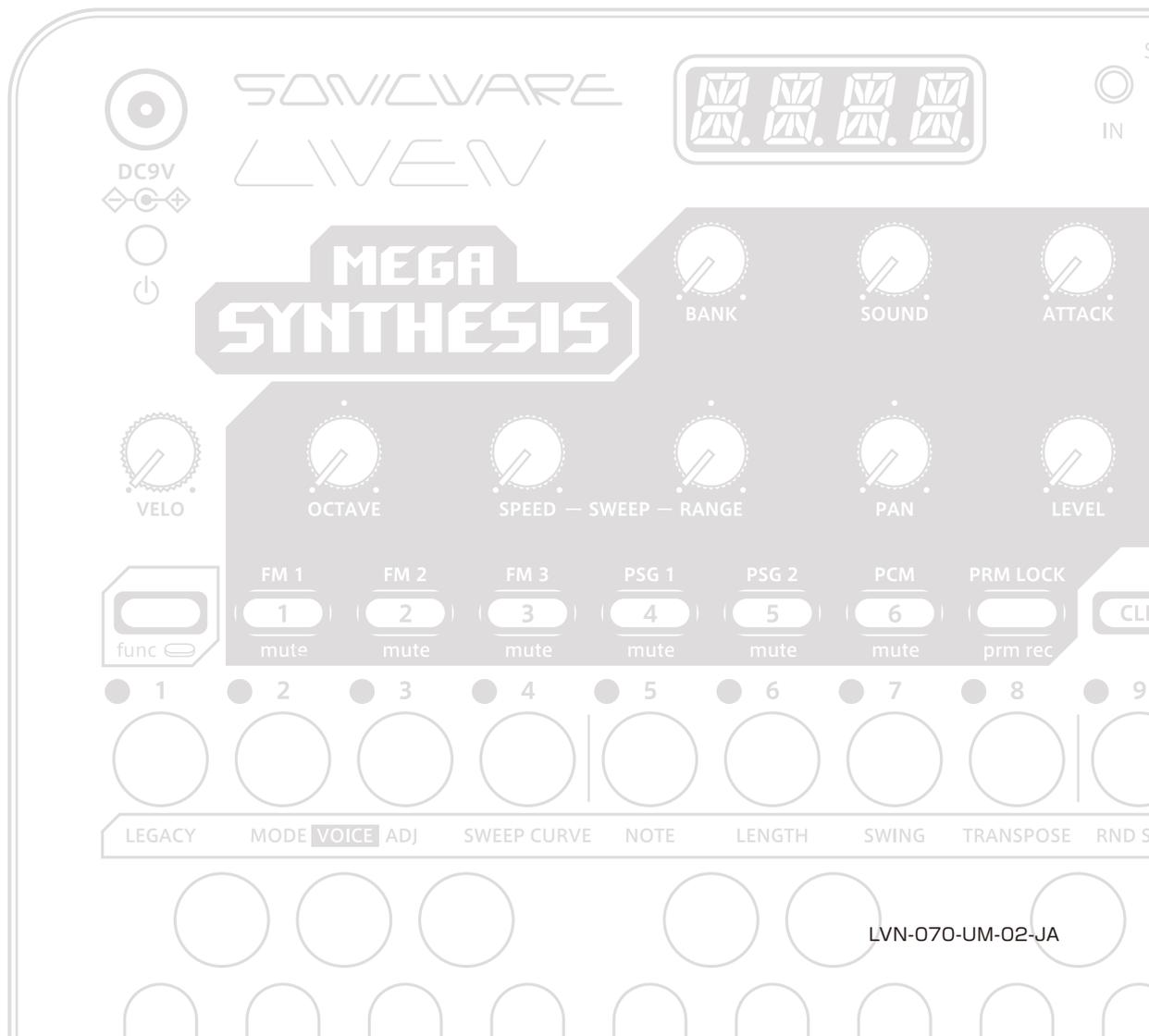
SONICWARE

LIVEN

MEGA SYNTHESIS

User's Manual

Rev.2



FCC regulation warning (for USA)

Note: This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with the instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment into an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.

法的免責事項

株式会社ソニックウェア（以下「SONICWARE」といいます）は、本文書が正確かつ最新のものであることを確保すべく努力致しますが、本文書に掲載されている内容に起因するいかなる賠償要求や損失に対してもその責任を一切負わないものとします。また、本文書の情報は、予告なく変更される可能性があります。SONICWARE は、随時、製品の仕様、プログラムの変更する権利を保有するものとします。SONICWARE は、本文書に示されるすべての誤りの責任を負いません。SONICWARE は、契約、不注意、その他の行為に関わらず、本情報の使用または機能、性能から生じるいかなる損害に対しても、責任を負いません。

著作権、登録商標について

- ・ SONICWARE は株式会社ソニックウェアの登録商標です。
- ・ MIDI は社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。
- ・ 本文書内のその他の会社名、製品名、規格名、登録商標は、それぞれの所有者に帰属します。
- ・ 本文書内のすべての商標および登録商標は各所有者の著作権を侵害する意図ではなく、識別のみを目的として記載されております。
- ・ 他の者が著作権を保有する音声ファイル、CD、レコード、ビデオ、テープ、放送、ストーリーミング、作品などから録音する場合、私的使用の場合を除き、権利者に無断での使用は法律で禁止されています。
- ・ 著作権法違反に対する処置に関して、株式会社ソニックウェアは一切の責任を負いません。

安全に関する重要な注意事項

安全にご使用頂き、事故を未然に防ぐために、以下の注意事項を必ずお読みください。

<警告>この注意事項を守らないと使用者が死亡または重症を負う危険がある内容を示しています。

- ・ AC アダプターでの動作
コンセントや配線器具の定格を超える使い方はしないでください。
雷が発生しているとき、長期間使用しないときは AC アダプターをコンセントから抜いてください。
- ・ 電池での動作
市販の 1.5V 単三乾電池を使用してください。

ご使用の電池の注意事項をよくお読みになってください。

電池の+ / -極を正しく挿入してください。

新しい電池と古い電池や種類の違う電池を同時に使用しないでください。

長期間使用しないときは、電池を取り外してください。

液漏れが発生したら、電池ボックスや端子に付いた液をよく拭き取ってください。

- ・ ケースを開け分解、改造を加えないでください。
- ・ 落としたり、衝撃や無理な力を加えたりしないでください。
- ・ 液体をかけたり入れたりしないでください。
- ・ 異物がケース内に入らないようにしてください。
- ・ 大音量で使用しないでください。聴力損失の原因となりうる大音量が発生する可能性があります。
- ・ 本体を輸送する場合は、購入時の個装箱と緩衝材をご使用ください。
- ・ 本体の電源が入っている間は、布やビニールなどで包まないでください。
- ・ 電源コードが踏まれたり、圧力がかかたりしないようにしてください。
- ・ 下記の環境ではご使用にならないでください。故障の原因になります。
直射日光のあたる場所、40℃を超える環境、コンロなどの熱源の近く
温度が極端に低いところや高いところ
湿度が極端に高いところ、水のかかるところ
振動の多いところ、砂やほこりの多いところ
- ・ 故障や異常が発生した場合は、すぐに電源を切りご使用をおやめください。

<使用上の注意>

この注意事項を守らないと使用者が怪我や物的損害の発生が想定される内容を示しています。

- ・ ケーブルを接続するときや本体の電源を操作するときは、接続している各機器の入力レベルを最小にするか電源を OFF にしてください。
- ・ お手入れ
画面やケースが汚れたときは、柔らかいクロスで力を入れず乾拭きしてください。
薬品（アルコール、ベンジン、シンナー、クレンザーなど含む）を使用しないでください。
汚れが落ちない場合は、水で布を少しだけ湿らせよくしぼってから、拭いてください。
製品が完全に乾くまで電源を入れないでください。

はじめに

このたびは、SONICWARE LIVEN MEGA SYNTHESIS をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

LIVEN MEGA SYNTHESIS は、6トラックステップシーケンサー、16個のフィジカルノブによる直感的な操作と電池駆動&スピーカー内蔵であらゆる環境でライブパフォーマンスが可能なコンパクトグローブボックスです。

末永くご愛用ください。

LIVEN MEGA SYNTHESIS の主な特長

- ・'80年代末に登場したあの世界初16ビット・ゲーム機の伝説的音源を完全再現
- ・高機能な6トラック・シーケンサーと10種のエフェクトによる、多彩なゲームミュージック創作
- ・「イース」や「ベア・ナックル」で知られる名作曲家『古代 祐三』氏制作のサウンドバンクとパターンを収録

あらゆる場所でジャム

電池駆動&スピーカー内蔵なので制作にもライブにも場所を選びません。

あらゆるデバイスとの同期

MIDI もしくは SYNC 端子搭載デバイスとのクロック同期が可能。

オーディオ SYNC 機能を使えば、LINE 端子を使い Teenage Engineering 社の PO シリーズとも同期が可能。

また、入力した SYNC クロック信号から MIDI クロックを生成するなど、種類の異なる端子間でもクロック同期信号をブリッジすることが可能。

目次

各部の名称	8	アルペジエーターのタイプを変更する (ARP のとき)	28
接続例	8	FM EDIT モードへの入退場	29
起動と終了	9	FM EDIT モード (サウンド・セレクト) に入る	29
電源の準備	9	サウンドの選択	29
起動	9	FM EDIT モードから出る (通常モードに戻る)	29
終了	9	FM シンセサイザー	30
基本操作	10	FM EDIT モード (エディット) - オペレーターの設定をする	31
全体の音量を調整する	10	パラメーターの調整	31
スピーカーを ON にする / OFF にする	10	FEEDBACK の設定	32
func キーの使い方	11	パラメーターの調整	33
トラックとパターン	12	エンベロープを調整する	34
トラックとは	12	パラメーターの調整	34
パターンとは	12	SSG-EG	35
パターンとバンク	12	SSG-EG を設定する	35
パターンの基本操作	13	FM EDIT モード (エディット) - サウンドの設定をする	36
パターンの選択	13	アルゴリズムの選択	36
パターンの再生	13	AMP LFO の調整	37
パターン 17 以降の選択	13	SOUND LEVEL の調整	37
テンポを変更する	14	オクターブ範囲を変える	38
パターンをリロードする	14	FM EDIT モード (エディット) - サウンドの確認をする	39
パターンのチェイン再生	15	サウンドの各種パラメーターの確認	39
パターンを複数選択して順番に再生する (チェイン再生)	15	VELOCITY を調整する	39
チェイン再生をループさせる	15	LEGACY を変更する	39
パターンごとに音量を調節する	15	ピッチスweepを調整する	40
トラックの選択と基本調整	16	ボイスモードを変更する	41
トラックの選択	17	グライドを変更する (MONO / LEGATO のとき)	41
トラックをミュートする	17	FM EDIT モード (エディット) - サウンドの保存とキャンセル	42
トラックの音量を調整する	18	設定内容の保存	42
トラックのパンを調整する	18	設定内容の破棄	42
トラックのサウンドを変更する	18	FM EDIT モード (エディット) - リネーム、コピー	43
サンプルのアタックとリリースを調整する	19	サウンドをリネームする	43
エフェクトへのセンド量を調整する	21	サウンドをコピーする	44
レガシーモード	22	FM EDIT モード (エディット) - クリア	45
鍵盤での演奏とボイスモード	23	サウンドをクリアする	45
演奏をする	23	FM EDIT モード (エディット) - サウンドのエクスポート / インポート	46
鍵盤をホールドする	23		
ペロシティを変える	23		
オクターブ範囲を変える	24		
ノートをスweepさせて演奏する	24		
ボイスモードを変更する	26		
グライドを変更する (MONO / LEGATO のとき)	27		

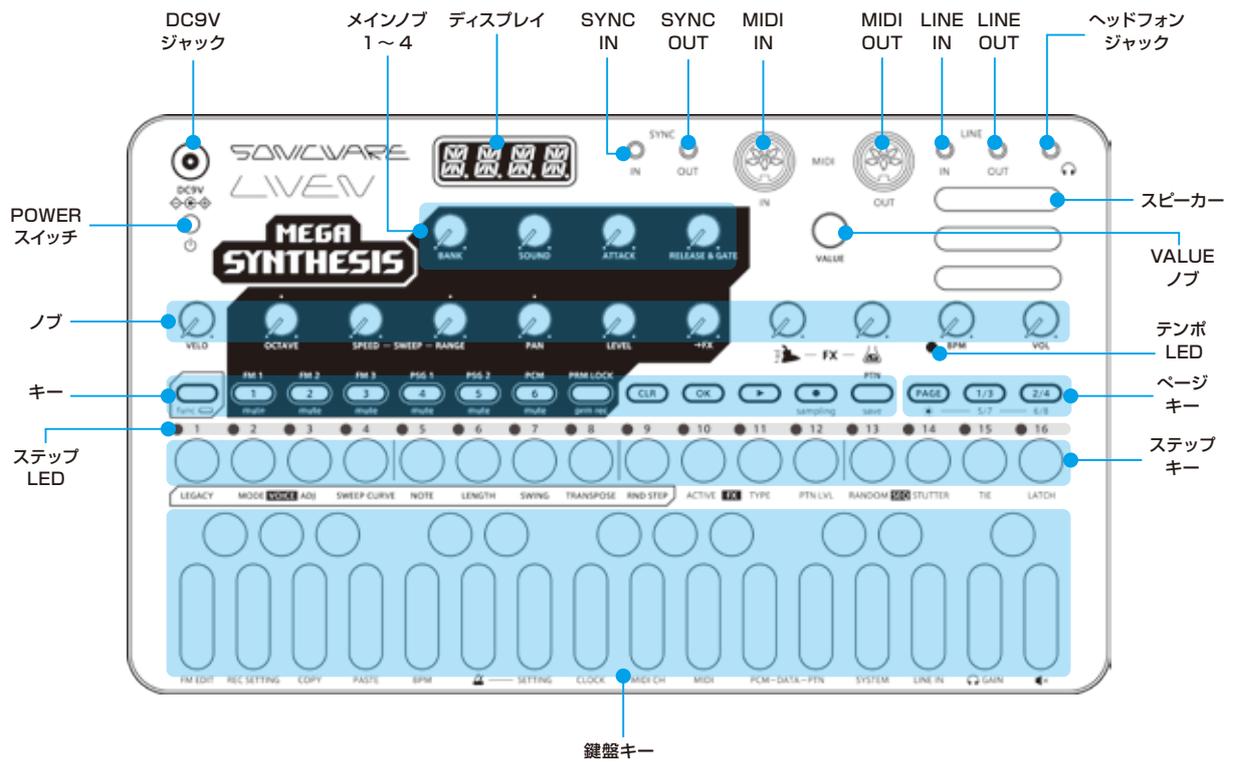
目次

1つのサウンドをエクスポートする	46	する(オートステップモード)	64
1つのサウンドをインポートする	46	タイ付きノート(長音)の入力を有効にする	65
サウンドのバンクをエクスポートする	47	タイ付きノート(長音)を入力する	65
サウンドのバンクをインポートする	47	シーケンスの作成 -リアルタイムレコーディング-	66
PSG サウンドの編集	48	基本操作	66
波形を選択する	48	メトロノームをオン/オフする	67
PSG サウンドの編集	49	メトロノームの音量を調節する	67
波形を編集する	49	プリカウントを設定する	67
PCM サウンドの編集	50	シーケンスの作成 -ダイレクトレコーディング-	68
PCM サウンドの編集	50	基本操作	68
2つのボイスモード	50	シーケンスの作成 -設定-	70
PCM のサンプリング	51	スイングを設定する	70
概要	51	トランスポーズ	70
サンプルを選択する	51	パラメーターロック	71
サンプリング -録音する-	52	パラメーターロックをONにする	71
サンプリングの設定	53	パラメーターロック情報のクリア	71
オート録音の設定	53	パラメーターロックの基本操作	71
サンプリング周波数の設定	53	パラメーターロック -ダイレクト入力-	72
サンプルのスライス	54	パラメーターロックをONにする	72
サンプルをスライスする	55	ノブの操作を記録する	72
サンプルのリネーム	56	パラメーターロック -リアルタイム入力-	73
サンプルをリネームする	56	リアルタイム入力をする(パラメーター REC)	73
サンプルのエクスポート/インポート	57	パラメーターロック -サウンドロック入力-	74
1つのサンプルをエクスポートする	57	サウンドロックをONにする	74
1つのサンプルをインポートする	57	ノート入力と同時にパラメーターロック情報を記録する	74
サンプルのバンクをエクスポートする	58	シーケンスエフェクト	75
サンプルのバンクをインポートする	58	ランダム	75
ステップシーケンサーの概要	59	ランダム設定	75
概要	59	スタッター	76
MEGA SYNTHESIS のステップシーケンサーの		シーケンスの消去	77
特長	59	ステップのクリア	77
シーケンスの作成 -準備-	60	シーケンスのノート情報を全てクリアする	77
トラックの選択とサウンドの選定	60	トラックの音色だけ前回保存した状態に戻す	77
シーケンスの作成 -設定-	61	トラックのコピー	78
1ステップのノートの長さを設定する	61	トラックを拡張コピーする	78
シーケンスの長さを設定する	61	トラックを別のトラックにコピーする	78
シーケンスの作成 -ステップレコーディング-	62	パターンの保存	79
基本操作	62	パターンを保存する(またはコピーする)	79
ステップ17以降の選択	63	パターンを初期化する	79
ステップのクリア	64	パターンのリネーム	80
ステップのコピー	64	パターンをリネームする	80
ステップレコーディング時に自動でステップを移動			

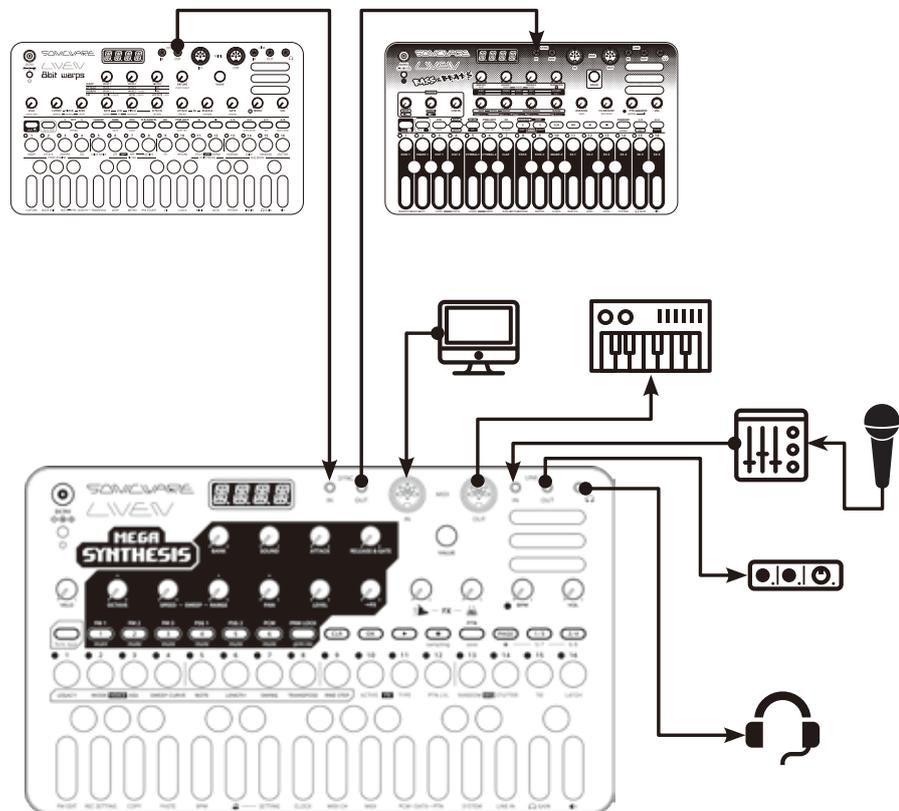
目次

テンポについて	81	1つのパターンをエクスポートする	95
BPM モードを設定する	81	1つのパターンをインポートする	95
LINE IN の設定	82	ユーザーデータを丸ごとバックアップする	96
ゲインを変更する	82	ユーザーデータを復元する	97
モノラル / ステレオを設定する	82	システム設定	98
エフェクトへのセンド量を設定する	82	バッテリーの種類を設定する	98
外部機器とのクロック同期	83	オートパワーオフの設定をする	98
概要	83	ミュートモードを変更する	99
クロックソースの設定をする	84	マスターチューンを設定する	99
Audio Sync 出力の設定をする	84	ヘッドフォンのゲインを設定する	99
SYNC IN の極性を設定する	85	ノブの動きの設定をする	100
SYNC OUT の極性を設定する	85	工場出荷状態に戻す (ファクトリーリセット)	101
外部機器とのクロック同期	86	システムのバージョンを確認する	101
LIVEN がクロックマスターの場合	86	ファームウェアをアップデートする	102
外部機器がクロックマスターの場合	87	エラーコード一覧	103
クロックマスターである外部機器のクロックを他の端子にブリッジする場合	88	付録	104
MIDI	89	図 1 サウンドアーキテクチャ	104
MIDI 送受信チャンネルを設定する	89	仕様	105
パターン用パラメーターの MIDI チャンネルを設定する	89		
選択したトラックにアクセスするための MIDI チャンネルを設定する (オートチャンネル)	89		
鍵盤キーを弾いたときに出力される MIDI チャンネルを設定する	90		
コントロールチェンジの送信を ON/OFF する	90		
MIDI クロックの出力を ON/OFF する	90		
MIDI OUT の設定をする	91		
MIDI コマンドの送受信の設定をする	91		
アクティブセンシングの送信の ON/OFF を設定する	91		
アクティブセンシングの受信の ON/OFF を設定する	92		
プログラムチェンジの送受信チャンネルの設定をする	92		
プログラムチェンジの送信を ON/OFF する	92		
プログラムチェンジの受信を ON/OFF する	93		
ユーザーデータのエクスポート・インポート	94		
接続について - PC/Mac とエクスポート・インポートする場合	94		
接続について - もう一台の LIVEN とエクスポート・インポートする場合	94		

各部の名称



接続例

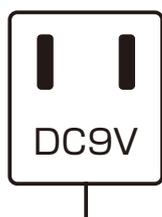


※接続するケーブル類は3m以下のものを使用してください。

起動と終了

電源の準備

AC アダプター (別売)



or

単三アルカリ乾電池 x 6



AC アダプターは必ず指定のものを使用してください。指定以外のACアダプターを使用した場合、故障の原因となります。

AC アダプター仕様※

電圧：9V 出力

電流：1A 以上

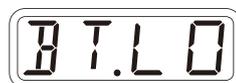
端子：EIAJ3 規格

(内径 1.7mm、外径 4.75mm)

極性：センター+

※ KORG 社 Volca 用アダプター KA350 相当

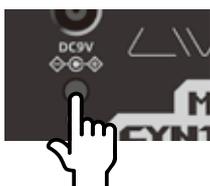
電池残量が少なくなるとディスプレイに BT.LO と表示されます。速やかに電池を交換してください。



ニッケル水素充電電池、リチウム電池を使う場合はバッテリーの設定を変更してください。(→ P.98)

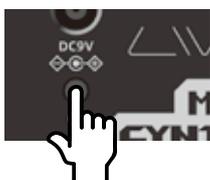
起動

- 1 ディスプレイに MEGA と表示されるまで POWER スイッチを長押し。



終了

- 1 ディスプレイが消灯するまで POWER スイッチを長押し。



! 作業中のデータは電源を切ると消えてしまいます。必要に応じて保存してください。

基本操作

基本的な操作について説明します。

全体の音量を調整する

スピーカー、ヘッドホン、LINE OUT の音量を調整します。



Volume
0 ~ 127
真ん中 (63 ~ 64) が 0dB で $-\infty$ ~ +6dB の範囲で変更できます

スピーカーを ON にする / OFF にする

ヘッドホンを接続せずに内蔵スピーカーをミュートしたいとき (LINE OUT のみを使用中等) は、手動で OFF に切り替えてください。



Speaker	
MUTE	スピーカー OFF
SPK	スピーカー ON

基本操作

func キーの使い方

LIVEN MEGA SYNTHESIS のキーには2つの機能が割り当てられているものがあります。



上の例だと、PTN キーには save、13 キーには RANDOM というサブ機能が割り当てられています。

func キーを押しながら、これらのキーを押すことでサブ機能呼び出すことができます。

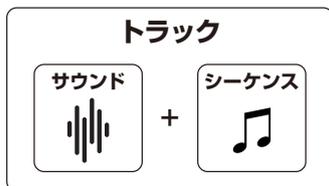
本マニュアルでは func キーを押しながらの操作は次のように記載します。



トラックとパターン

トラックとは

LIVEN MEGA SYNTHESIS は、6トラックのシーケンサーを搭載したグループボックスです。**トラック**とは、**サウンド**の設定と**シーケンス**（演奏情報）を1つにまとめたものです。LIVEN MEGA SYNTHESIS は、このトラックを6つ持っていて、各トラックごとに別々のサウンドでシーケンスを作成することができます。



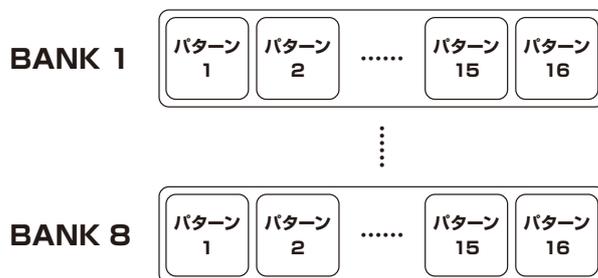
パターンとは

パターンとは、上記6つのトラックを1つにまとめたものです。1つのパターンの長さは1～8小節ほどで、楽曲を構成する最小単位になります。



パターンとバンク

16個のパターンが1つの**バンク**にまとめて格納されます。LIVEN MEGA SYNTHESIS は8個のバンクがあり、合計128パターンを保存できます。



- ・BANK1にはプリセットされたパターンが格納されています。
次のページを参考にしてPLAYしてみましよう。

パターンの基本操作

パターンの選択

1  を押す。

2  ~  を押す。

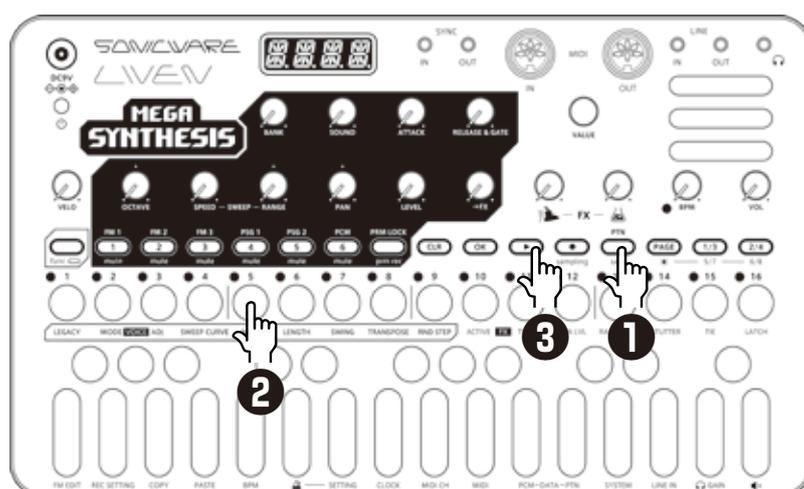
→パターンが選択されます。

(STEP1 =パターン 1 … STEP16 =パターン 16)

パターンの再生

3  を押す。

再度押すと停止します。



パターン 17 以降の選択

手順1の後に    を押すことでバンクを変更してパターン 17 以降を選択できます。

  	バンク 1	  	バンク 5
  	バンク 2	  	バンク 6
  	バンク 3	  	バンク 7
  	バンク 4	  	バンク 8



・パターン再生中に別のパターンを選択した場合、すぐに切り替わらず予約されます。

再生中のパターン終了後に選択したパターンに切り替わります。

・  を押した後、 VALUE でもパターンを選択できます。

パターンの基本操作

テンポを変更する



BPM
40 ~ 250
ディスプレイにテンポが表示されているときに、  VALUE を回すと 0.1 単位で値を変更できます。BPM を 80 より遅く、または 160 より速く設定する場合も、  VALUE を併用してください。

パターンをリロードする

1  を押す。

2  を押す。
ライブパフォーマンス中などで元のサウンドに戻したい時に便利です。



パターンのチェイン再生

パターンを複数選択して順番に再生する (チェイン再生)

- 1  を 2 回押す (オレンジに点灯)。
- 2  ~  を押す。
再生させたい順番でパターンを選択する。
再度  ~  を押すと解除される。
- 3  を押す。
選択された順番でパターンが再生される。



- ・もう一度  キーを押すとチェイン再生から抜けます。
- ・チェイン再生時はスタッターモード (→ P.76) が使えません。

チェイン再生をループさせる

- 1  +  を押し、CN.LP を選択。
- 2  VALUE で、LOOP を選択する。



パターンごとに音量を調節する

- 1  +  を押す。
- 2  VALUE で、調節する。

Pattern Level
0 ~ 127
-∞ ~ +6dB の範囲でパターンの音量が変化します

トラックの選択と基本調整

MEGA SYNTHESIS は、FM 音源 3トラック、PSG 音源 2トラック、PCM 音源 1トラックの FM 音源チップ「YM2612」を再現した計 6トラック構成になっています。

これら 6 つのトラックを切り替えてオペレーションします。

トラック 1、2、3:

最大同時発音数 6 ボイスの FM シンセ音源

メロディーやコードセクションを作るのに向いています。

FM EDIT モードで作成したサウンドを選択して調整します。

専用のエディットモードでサウンドの詳細な編集をすることができます。

FM EDIT モード参照 (→ P.30)

トラック 4、5:

最大同時発音数 4 ボイスの PSG 音源

チップチューンサウンドや簡単なドラムサウンドを作るのに向いています。

PSG 音源ではプリセットの矩形波、パルス波形、ノイズ波形を選択してサウンドの調整ができます。

PSG サウンドの詳細な編集については PSG サウンドを編集するを参照 (→ P.48)

トラック 6:

最大同時発音数 3 ボイスの PCM 音源

ドラムなどのリズムセクションを作るのに向いています。

プリセットの PCM サンプルを選択して編集します。

サンプリング機能を使用することで任意のサウンドを取り込むこともできます。

PCM サウンドの詳細な編集については PCM サウンドを編集するを参照 (→ P.50)

トラックの選択と基本調整

トラックの選択

- 1 選択したいトラックを **1** ~ **6** を押して選ぶ。
選択した TRACK が赤く点灯し、ディスプレイにトラックナンバーが表示されます（選択していない TRACK は緑に点灯）。
本体トップパネルの枠で囲まれている部分が、トラックごとにコントロールできるパラメーターです。



トラックをミュートする

- 1 ミュートしたいトラックを **func** + **1** ~ **6** を押して選ぶ。
ミュートした TRACK がオレンジに点灯します。
func + オレンジに点灯したキーを押すとミュートが解除されます。



- ・出荷状態では MT.MD (ミュートモード) が SEQ に設定されており、トラックをミュートしても演奏は可能になっています。
トラックのサウンドを完全にミュートしたい場合は、**func** + **SYSTEM** の **MT.MD** で **SND** を選択してください。
ミュートモードについては (→ P.99)

トラックの選択と基本調整

トラックの音量を調整する

- 1  LEVEL を回す。
選択中のトラックの音量を 0 ~ 127 (- ∞ ~ +6dB) の範囲で調整できます。

トラックのパンを調整する

- 1  PAN を回す。
選択中のトラックのパンを L63 ~ CNTR ~ R63 の範囲で調整できます。

トラックのサウンドを変更する

 BANK と  SOUND を回してトラックごとにサウンドを選択します。
トラックによって選択できる音源が異なります。

トラック	音源	BANK	SOUND
1、2、3	FM	1 ~ 32 バンク	1 ~ 16 サウンド
4、5	PSG	11 タイプ	ピッチ調整 ノイズタイプはディケイ調整
6	PCM	1 ~ 6 バンク	1 ~ 16 サンプル



・ BANK、SOUND の選択は  VALUE でも行えます。

トラックの選択と基本調整

サンプルのアタックとリリースを調整する

⊖ ATTACK で音の鳴り始めのアタック感、⊖ RELEASE & GATE で音の終わりの余韻を調整します。

1 ⊖ ATTACK、⊖ RELEASE & GATE を回す。



ATTACK

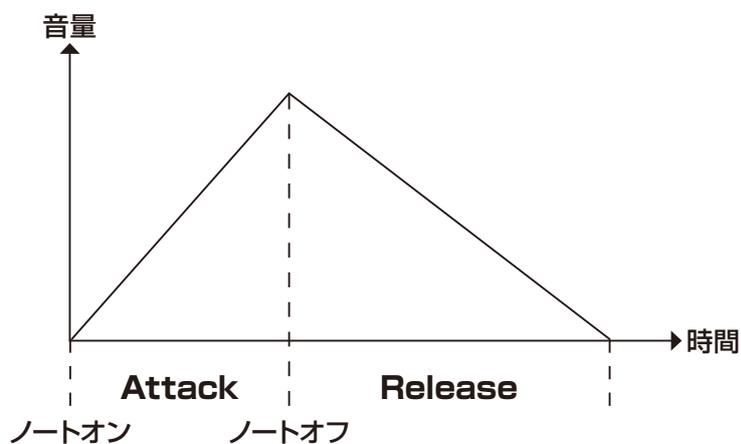
attack (EG)		
FM	PSG	PCM
-10 ~ 10	0 ~ 127	0 ~ 127
選択したサウンドの設定値を基準に±10の範囲で変化します。	アタック時間が変化します。ノイズ→矩形波またはパルス波を選択した場合ノイズの発音時間を調整します。	アタック時間が変化します。

トラックの選択と基本調整



RELEASE & GATE

RELEASE & GATE (EG)		
FM	PSG	PCM
0 ~ 127	0 ~ 127	0 ~ 127
103 ~ 127の範囲でリリース時間が長くなります (サウンド本来のリリースレートから0 ~ -10で変化)。 103 ~ 80の範囲でリリース時間が短くなります (サウンド本来のリリースレートから0 ~ +10で変化)。 79 ~ 0: ゲート時間が短くなります (90 ~ 10%) (サウンド本来のリリースレートから+10された状態)	0 ~ 41の範囲でゲート時間(10 ~ 90%)、42 ~ 127の範囲でリリース時間が変化します	0 ~ 41の範囲でゲート時間(10 ~ 90%)、42 ~ 127の範囲でリリース時間が変化します



トラックの選択と基本調整

エフェクトへのセンド量を調整する

☺→FX でトラックごとにエフェクトへのセンド量を調節できます。
エフェクトは以下のように設定します。

- 1  でエフェクトを ON にする。
- 2  でエフェクトを選択。
 VALUE でもエフェクトタイプを選択できます。
- 3  と  でパラメーターを調整。

			
S.DLY	Send Delay	Time	Amount
I.DLY	Insert Delay	Time	Amount
RVB	Reverb	Decay	Mix
CRSH	Crusher	Sample rate	LPF Cut off
DIST	Distortion	Gain	Tone
COMP	Compressor	Ratio	Threshold
LPF	Low pass filter	Cut off	Resonance
HPF	High pass filter	Cut off	Resonance
ISO	Isolator	Frequency	Balance
R.MIX	Remix	Length	Amount



- Send Delay、Reverb は ☺→FX でセンド量を調整できるセンドタイプの FX です。
それ以外の FX は ☺→FX が 1 以上の時にエフェクトがかかるインサートタイプです。
- R.MIX は ☺→FX が 1 以上の時に  を押して ON にしたタイミングの発音をリピートします。ACTIVE FX が OFF になるまで FX の発音が続きます。

トラックの選択と基本調整

レガシーモード

MEGA SYNTHESIS は、各トラックごとに当時のサウンドを再現するレガシーモードを搭載しています。**OFF** にすると、現代的なサウンドになります。

1  +  を押して選択。

レガシーモードは、デフォルトで **ON** に設定されています。

複数回押すか、 VALUE を回して設定してください。

FM 音源トラックでは、「YM2612」チップのサウンドをより忠実に再現するために 3 種類のモードを設定できます。

FM:

FILTER: 音源チップの周波数特性を再現します。

LADDER: 音源チップの DAC の挙動を再現します。

FILTER + LADDER: 上記二つの特性を同時に使用します。

PSG 音源トラックでは、FILTER の ON、OFF が可能です。

PCM 音源トラックでは、さらにビットレートを落とした強烈なサウンドが楽しめる 4BIT モードを設定できます。

PCM:

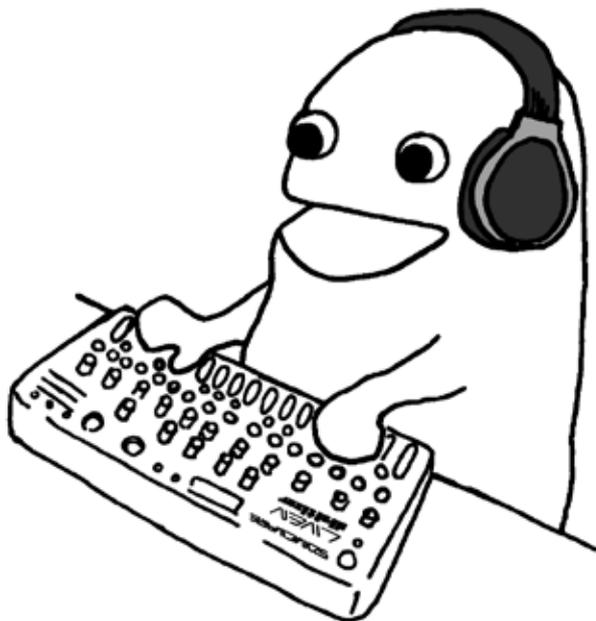
FILTER: FM トラック同様

4BIT: FILTER に加えてビットレートを落としたサウンドになります。

鍵盤での演奏とボイスモード

演奏をする

- 1 鍵盤を弾く。



鍵盤をホールドする

- 1 **OK** + 鍵盤でホールドされる。



- ・もう一度同じ鍵盤を弾くと解除されます。
 - ・**CLR** + **OK** ですべての鍵盤のホールドが解除されます。
-

ベロシティを変える

鍵盤を弾いた時の強さを設定します。



Velocity
0 ~ 127
値が大きいほど鍵盤を強く弾いたこと になります

鍵盤での演奏とボイスモード

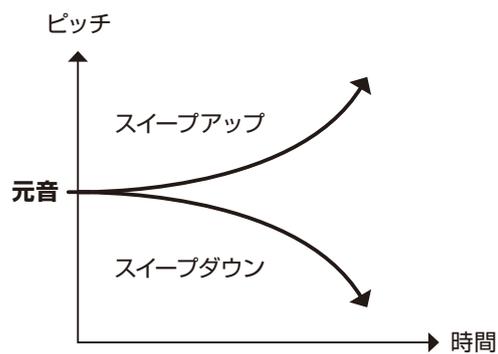
オクターブ範囲を変える

- 1  OCTAVE を回す。
± 3 オクターブの変更が可能です。

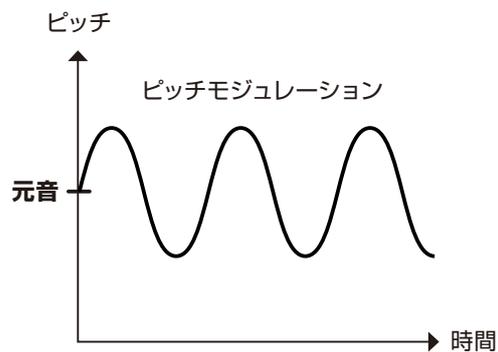
ノートをスイープさせて演奏する

- 1  +  を押し、タイプを選択。

SWEEP



LFO



鍵盤での演奏とボイスモード

func + SWEEP CURVE		SPEED - SWEEP	RANGE - SWEEP	
Curve		Speed	Range	
カーブのタイプを変更		スイープの速度	スイープの量	
LINE	LINER	0 ~ 31 値が小さいほどスイープの速度が速くなります。	1 ~ 11	1 ~ 11 半音
入力したノートからレンジ分直線的に変化します			+10T -10T	1 オクターブ
EXP	EXP		+20T -20T	2 オクターブ
入力したノートからレンジ分最初ゆっくり変化し、後半は急に変化します				
LOG	LOG	0 ~ 127 値が大きいほど LFO の速度が速くなります。	0 ~ 127 値が大きいほど LFO のピッチモジュレーションが深くかかります。	
入力したノートからレンジ分最初急に変化し、徐々にゆっくり変化します				
SINE	SINE			
サイン波のピッチ LFO				
SQAP	SQUARE			
矩形波のピッチ LFO				
TRI	TRIANGLE			
三角波のピッチ LFO				
SAW	SAW			
鋸歯状波のピッチ LFO				
RSAW	R.SAW			
逆鋸歯状波のピッチ LFO				
RNDM	RNDM			
ランダム波のピッチ LFO				

鍵盤での演奏とボイスモード

ボイスモードを変更する

- 1  +  を押す。
ボイスモードを選択する。

 + 
func + MODE


VALUE

Voice Mode (FM、PSG)		
<i>POLY</i>	Polyphonic	FM: 最大 6 ボイス同時出力のモード PSG: 最大4ボイス同時出力のモード
<i>MONO</i>	Mono	リトリガーありの 1 ボイス出力のモード
<i>LGT</i>	Legato	リトリガー無しの 1 ボイス出力のモード
<i>ARP</i>	Arpeggiator	押さえている鍵盤を 1 音ずつ発音するモード

Voice Mode (PCM)		
<i>DRUM</i>	Drums	サンプルをスライスして鳴らすモード (最大 3 ボイスのスライスの発音可)
<i>SHOT</i>	One Shot	サンプルをワンショットで鳴らす

鍵盤での演奏とボイスモード

グライドを変更する (MONO / LEGATO のとき)

1  +  を押す。

2  VALUE で速度を設定する。

 + 				
 VALUE	<table border="1"><tr><td>Glide</td></tr><tr><td>0 ~ 127</td></tr><tr><td>0 ~ 10000ms の範囲で時間が変化します</td></tr></table>	Glide	0 ~ 127	0 ~ 10000ms の範囲で時間が変化します
Glide				
0 ~ 127				
0 ~ 10000ms の範囲で時間が変化します				

鍵盤での演奏とボイスモード

アルペジエーターのタイプを変更する (ARP のとき)

1  +  を押す。

2  VALUE でアルペジエーターのタイプを選択する。

 + 


VALUE

Arpeggiator		
UP	UP	
DOWN	DOWN	
U.D	UP DOWN	
D.U	DOWN UP	
U.A.D	UP&DOWN	
D.A.U	DOWN&UP	
RANDOM	RANDOM	
UP+1	UP+1	
UP+2	UP+2	
DN-1	DOWN-1	
DN-2	DOWN-2	
P.O	PLAY ORDER	 鍵盤の押下順番 通りに発音

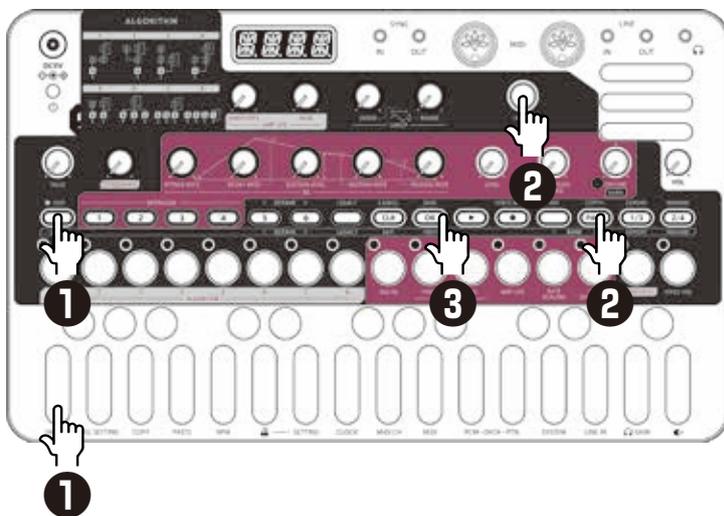
FM EDIT モードへの入退場

FM EDIT モード (サウンド・セレクト) に入る

- 1  +  を押す。

サウンドの選択

- 2  を押して BANK を選択して、
 VALUE を回しサウンドを選択する。
- 3  を押す。
→ FM EDIT モード (エディット) に入場します。



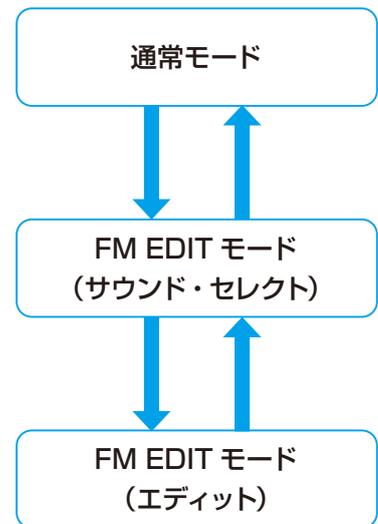
付属の FM EDIT 用のオーバーレイシートを本体の上に乗せてください。



・サウンド選択中、鍵盤キーでサウンドをプレビューすることができます。

FM EDIT モードから出る (通常モードに戻る)

- 1  を押す。
サウンド・セレクトに戻ります。
- 2 もう一度  を押す。
通常モードに戻ります。



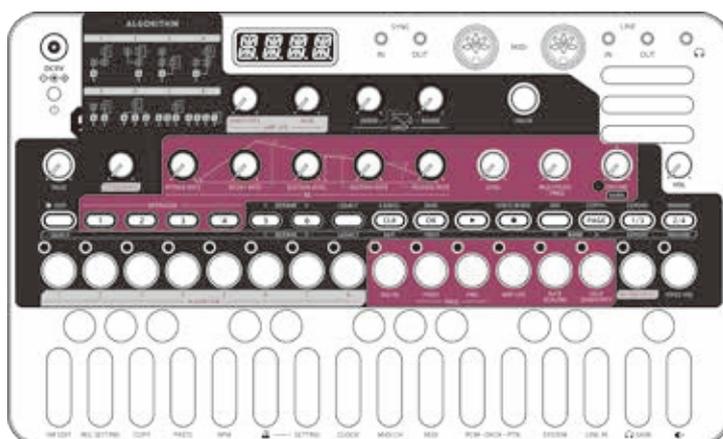
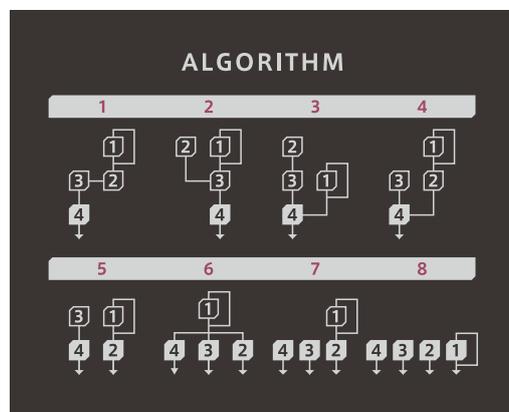
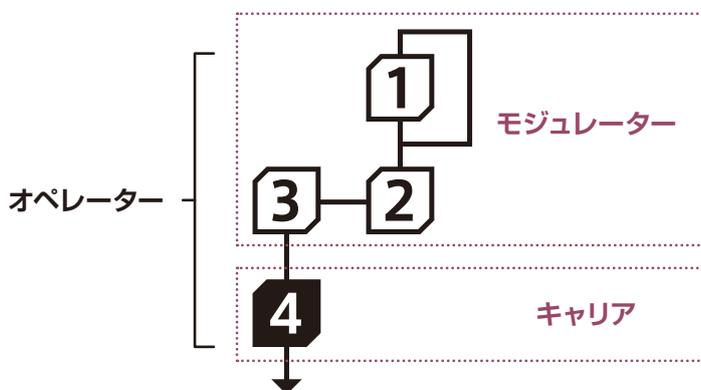
FM シンセサイザー

FM シンセシスとは Frequency Modulation = 周波数変調によって、複数のオペレーターと呼ばれる波形音源を組み合わせ、波形を複雑に変形しサウンドを生成するシンセサイザーの合成方式です。

オペレーターとは、減算式シンセシスにおけるオシレーターのようなものですが、その一つ一つに独立したエンベロープを持っています。また、モジュレーション側を「モジュレーター」、出力側を「キャリア」と呼び、その組み合わせ方によって多様なモジュレーションパスを作ります。このモジュレーションパスの組み合わせをFM シンセシスでは「アルゴリズム」と呼んでいます。

オペレーターのパラメータ変化とアルゴリズムの選択によって、時間経過による複雑な倍音の変化を実現しています。

MEGA SYNTHESIS では、特に 80 年代後半から 90 年代にかけて大ヒットした家庭用ゲーム機にも採用された音源チップ「YM2612」と同じく、4 オペレーター - 8 アルゴリズムの FM シンセエンジンを採用しています。懐かしのゲームサウンド、煌びやかなベル、カオスなノイズやアコースティックパーカッションまで幅広いサウンドメイクがおこなえます。



FM EDIT モード (エディット) –オペレーターの設定をする–

パラメーターの調整

1 OPERATOR (1) (2) (3) (4) を選択する。



2 ノブを回す。



オペレーターの音量	オペレーターの周波数	オペレーターのデチューン
 LEVEL	 MULTIPLIER / FREQ	 DETUNE
Level	MULTIPLIER/FREQ	Detune
0 ~ 127	0.50 ~ 15.00 / 1.0 ~ 9831Hz	-3 ~ 3
選択中のオペレーターの最大音量を設定します。 0 でオペレーターが無音になります。	選択中のオペレーターの周波数を設定します。 FIXED がオフの時は MULTIPLIER/FREQ ノブで 1.00 ずつ設定できます。 FIXED がオンの時は MULTIPLIER/FREQ ノブを回すことで 76.5Hz ずつ設定できます。 FIXED がオンの時は演奏する鍵盤にかかわらず、設定した周波数が常に発音されます。	選択中のオペレーターのデチューンを設定します。



- ・  EDIT を押しながら、OPERATOR (1) (2) (3) (4) を押すことで一時的に対象のオペレーターをミュートすることが可能です。
 ミュートしたオペレーターはオレンジ色に点灯します。ミュート解除するには、再度  EDIT を押しながらミュート中の OPERATOR (1) (2) (3) (4) を押すか、ミュート中のオペレーターの  LEVEL を操作することで解除できます。
- ・ ミュートの設定はサウンドには保存されません。

FEEDBACK の設定

オペレーター 1 は専用のフィードバック回路を持っています。



FEEDBACK

Feedback
0 ~ 127
フィードバック量を設定できます。 値を大きくしていくほどにノイズに近づいた音になります。

FM EDIT モード (エディット) – オペレーターの設定をする –

パラメーターの調整

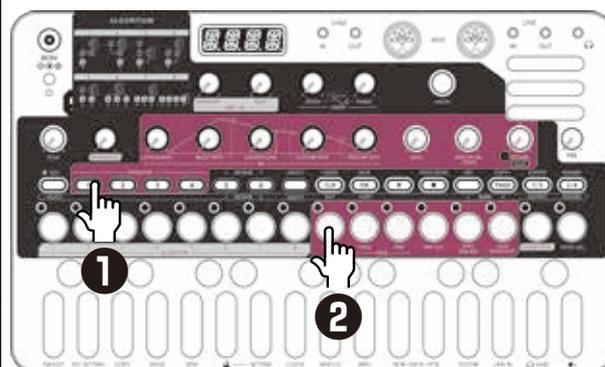
1 OPERATOR 1 2 3 4 を選択する。

2 ステップキーを押す。



SSG EG	Fixed	Fine	Amp LFO
OFF、 8 種類の SSG タイプ	OFF、ON	1 ~ 9831Hz、 0.50 ~ 15.00	OFF、ON
SSG EG タイプを選 択します。 SSG EG については (→ P.35)	オペレーターの周波数 を固定します。 FIXED がオンになる ことで鍵盤を演奏して も設定した周波数のみ 発音されます。	オペレーターの周波数 を微調整します。 FIXED がオフの時は 0.1 ずつ変化します。	オペレーターに AMP LFO を適用するかを 設定します。 AMP LFO については (→ P.37)
VALUE	VALUE	VALUE	VALUE

Rate Scaling	Velocity Sensitivity
0 ~ 3	0 ~ 127
値が大きいほど低い ノートのエンベロープ のタイムが長く、高い ノートほどエンベロー プのタイムが短くなり ます。	値が大きいほどベロシ ティがオペレーターの レベルに反映されるよ うになります。 VELO SENSITIVITY キーを押すことで 10 飛ばしでパラメーター の調整ができます。
VALUE	VALUE



VALUE = 調整可能なパラメータ

エンベロープを調整する

YM2612 のエンベロープは ATTACK タイム、DECAY タイムを操作する一般的なシンセサイザーとは違う、少し変わったエンベロープを持っています。

RATE ノブは値が大きくなるほどエンベロープタイムが早くなります。

SUSTAIN LEVEL はディケイタイムが終了した時の音量を設定します。

パラメーターの調整

1 OPERATOR  を選択する。

2 ノブを回す。



Envelope Generator			
ATTACK RATE	DECAY RATE	SUSTAIN LEVEL	SUSTAIN RATE
ノートオン後の音量の立ち上がり速度。LEVEL ノブで設定した音量まで上がります。	ノートオン中、SUSTAIN LEVEL までの減衰速度。LEVEL ノブで設定した音量から SUSTAIN LEVEL で設定した音量まで下がります。	ノートオン中、SUSTAIN の音量。SUSTAIN RATE が 0 の時、ノートオフするまで設定した音量で発音が続きます。	ノートオン中、SUSTAIN LEVEL が 0 になるまでの速度。1 以上に設定することで鍵盤を押下中でも徐々に音量が下がります。
0 ~ 31	0 ~ 31	0 ~ 127	0 ~ 31

RELEASE RATE
ノートオフ後に LEVEL が 0 になるまでの速度
0 ~ 31

FM EDIT モード (エディット) –オペレーターの設定をする–

SSG-EG

SSG-EG とは、エンベロープをリピート、反転、ホールドすることで、複雑な LFO のように使用できる特殊なエンベロープ波形です。

SSG-EG を設定すると AR (Attack Rate) が 31 に固定され、ノートオン中の EG 動作を DR (Decay Rate)、SL (Sustain Level)、SR (Sustain Rate) によって調整します。

各ノブはそれぞれ設定している SSG-EG タイプによって動作が変化します。

SSG-EG を設定する

1 OPERATOR (1 2 3 4) を選択する。

2 SSG EG を押す。



OFF	OFF	-
	リピート	ノートオン中、DR、SL、SR で設定したエンベロープが TOTAL LEVEL- 0の間を繰り返します。
	ホールド (MIN)	ノートオン中、DR、SL、SR で設定したエンベロープが終了すると、0 に音量がホールドされます。
	リピート (オルタネイト)	ノートオン中、DR、SL、SR、で設定したエンベロープが TOTAL LEVEL と0の間を繰り返します。0 から TOTAL LEVEL へは反転した EG 波形になります。
	ホールド (MAX)	ノートオン中、DR、SL、SR で設定したエンベロープが終了すると、LEVEL で設定した音量にホールドされます。
	インバート・リピート	ノートオン中、DR、SL、SR で設定した反転したエンベロープが TOTAL LEVEL- 0の間を繰り返します。
	インバート・ホールド (MAX)	ノートオン中、DR、SL、SR で設定した反転したエンベロープが終了すると、LEVEL で設定した音量にホールドされます。
	インバート・リピート (オルタネイト)	ノートオン中、DR、SL、SR で設定した反転したエンベロープが TOTAL LEVEL- 0の間を繰り返します。0 から TOTAL LEVEL へは通常の EG 波形になります。
	インバート・ホールド (MIN)	ノートオン中、DR、SL、SR で設定した反転したエンベロープが終了すると、0 に音量がホールドされます。

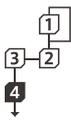
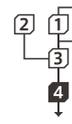
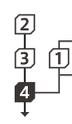
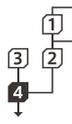
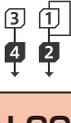
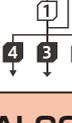
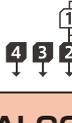
FM EDIT モード (エディット) – サウンドの設定をする –

アルゴリズムの選択

それぞれのアルゴリズムを駆使することで、透き通るようなベルサウンドから激しく歪んだエレキギター、古き良きオルガンサウンドまで自由に音色を作り出せます。

1 ステップキー  ~  を押す。



			
ALGO1	ALGO2	ALGO3	ALGO4
例：ギター、ベース	例：ハーブ	例：ピアノ	例：ストリングス、アコースティックギター
モジュレーター：①、②、③ キャリア：④			
			
ALGO5	ALGO6	ALGO7	ALGO8
例：ベル、木管楽器	例：金管楽器	例：シロフォン	例：オルガン
モジュレーター：①、③ キャリア：②、④	モジュレーター：① キャリア：②、③、④		モジュレーター：なし キャリア：①、②、③、④

AMP LFO の調整

AMP LFO は全てのオペレーターで共通の設定になります。

 SENSITIVITY – AMP LFO	 AMP LFO – RATE
Sensitivity	Rate
0 ~ 3	0 ~ 7
AMP LFO の深さを調整します。 0 に設定するとオペレーターの AMP LFO がオンであっても LFO がかかりません。	AMP LFO の速さを調整します。

SOUND LEVEL の調整

SOUND LEVEL を使うことで作成したサウンド全体の音量を調整できます。

1  SOUND LEVEL を押す。

2  VALUE ノブを回す。

 VALUE	Sound Level
	0 ~ 127

オクターブ範囲を変える

- 1   を押す。
1 オクターブ低く / 高くなります。

<	>	
5	6	+3 OCT
<hr/>		
<	>	
5	6	+2OCT
<hr/>		
<	>	
5	6	+1 OCT
<hr/>		
<	>	
5	6	
<hr/>		
<	>	
5	6	-1 OCT
<hr/>		
<	>	
5	6	-2OCT
<hr/>		
<	>	
5	6	-3 OCT

FM EDIT モード (エディット) – サウンドの確認をする –

サウンドの各種パラメーターの確認

FM EDIT モードではサウンド設定には保存されないサウンドチェック用パラメーターがあります。

エディット時にこれらを使用することで通常モードでの発音を確認することができます。

VELOCITY を調整する


VELO

Velocity
0 ~ 127

LEGACY を変更する

LEGACY 	LEGACY 	LEGACY 	LEGACY 
OFF	FILTER	LADDER	FILTER、LADDER



- ・使用する LEGACY によってサウンドが変わります。
- ・LEGACY については (→ P.22)

FM EDIT モード (エディット) – サウンドの確認をする –

ピッチスイープを調整する

 SPEED – SWEEP	 SWEEP – RANGE
Speed	Range
0 ~ 127	0 ~ 127
SWEEP の速さを調整します。	SWEEP の深さを調整します。



- ・SWEEP 波形は SINE 固定です。
 - ・通常モードでの SWEEP については (→ P.24)
-

ボイスモードを変更する

- 1  キーを押す。
ボイスモードを選択する。

Voice Mode	
POLY	Polyphonic
MONO	Mono
LGT	Legato



・VOICE MODE については (→ P.26)

グライドを変更する (MONO / LEGATO のとき)

- 1  キーを押す。
- 2  VALUE ノブを回す。


VALUE

Glide
0 ~ 127



- ・  キーを押すことで 10 飛ばしでパラメーターの調整ができます。
- ・グライドについては (→ P.27)

設定内容の保存

- 1  を 2 回押す。
保存され、サウンド・セレクトに戻ります。



設定内容の破棄

- 1  を押す。
保存されずにサウンド・セレクトに戻ります。
 が緑点滅している場合は 2 回押してください。

サウンドをリネームする

1 エディットで  を押す。

2   でカーソルを左右に移動、
 VALUE を回して文字を選択する。



3  を押す。
ディスプレイに DONE と表示され
確定します。



・サウンド・セレクトで  を押すと同様にバンク名をリネームできます。

サウンドをコピーする

1 サウンド・セレクトで初期状態のサウンドを選択。

2  を押してエディットに入る。

3  を押す。

4  VALUE を回してコピーしたいサウンドを選択。



・ステップキーを押すことでもサウンドを選択できます。

・サウンド選択中、鍵盤を押してサウンドの確認ができます。

5  を押す。
サウンドがコピーされます。



・コピーが完了後、 を 2 回押すことでコピーされたサウンドが保存されます。

・各手順の途中で  を押すとキャンセルできます。

FM EDIT モード (エディット) ークリアー

サウンドをクリアする

- 1 エディットで  を押す。
サウンドが消去されます。



- ・サウンドの初期化後に  を 2 回押すことで初期値のサウンドが保存されます。
 - ・SAVE 実行前に  を押すとキャンセルできます。
-

FM EDIT モード (エディット) – サウンドのエクスポート / インポート –

編集したサウンドは、MIDI 経由で PC/Mac 等へエクスポート / インポートすることができます。接続については、(→ P.94) をご覧ください。

1 つのサウンドをエクスポートする

1 サウンド・セレクトで、エクスポートしたいサウンドを選択。

2  を押し、エディットへ入る。

3  を押す。



4 MIDI データの受信側を待機状態にする。

5  を押す。

サウンドデータの送信が開始されます。

ステップ LED が進捗状況を示し、

終了すると DONE と表示されます。



1 つのサウンドをインポートする

1 サウンド・セレクトで、インポートしたいサウンドを選択。

2  を押し、エディットへ入る。

3 送信側でデータの送信を開始する。

4 データの受信完了後、 を 2 回押して保存する。

サウンドのバンクをエキスポートする

1 サウンド・セレクトで、 を押して
エキスポートしたいバンクを選択。

2  を押す。



3 MIDI データの受信側を待機状態にする。

4  を押す。

サウンドデータの送信が開始されます。
ステップ LED が進捗状況を示し、
終了すると DONE と表示されます。



サウンドのバンクをインポートする

1 サウンド・セレクトで、 を押して
インポートしたいバンクを選択。

2 送信側でデータの送信を開始する。

3 BK.SV と表示されたら  を押す。



PSG サウンドの編集

PSG サウンドの編集

PSGトラックでは、 BANK ノブと  SOUND ノブで専用のパラメータをエディットします。

波形を選択する

- 1  BANK ノブを回して波形を選択。



Select Wave		
<i>SQAR</i>	SQUARE	矩形波
<i>NL:S</i>	NOISE LOW > SQUARE	ローノイズから矩形波へ
<i>NM:S</i>	NOISE MID > SQUARE	ミッドノイズから矩形波へ
<i>NH:S</i>	NOISE HIGH > SQUARE	ハイノイズから矩形波へ
<i>PULS</i>	PULSE	デューティー比約9:1のパルス波
<i>NL:P</i>	NOISE LOW > PULSE	ローノイズからパルス波へ
<i>NM:P</i>	NOISE MID > PULSE	ミッドノイズからパルス波へ
<i>NH:P</i>	NOISE HIGH > PULSE	ハイノイズからパルス波へ
<i>NSLO</i>	NOISE LOW	ローノイズ
<i>NSMD</i>	NOISE MID	ミッドノイズ
<i>NSHI</i>	NOISE HIGH	ハイノイズ

PSG サウンドの編集

波形を編集する

- 1  SOUND ノブを回して波形を選択。



Wave Edit		
Detune	SQAR、NL>S、 NM>S、NH>S PULS、NL>P、NM>P、 NH>P	-63 ~ 63
Decay	NS.LO、NS.MD、NS.HI	0 ~ 127

PCM サウンドの編集

PCM サウンドの編集

PCMトラックでは、6バンク16スロット、合計96個のサンプルを選択してエディットします。

プリセットでは多様なドラムサンプルをリズムトラックとして使いやすいように、あらかじめ6スライスにアサインできるよう収録しています。

また、サンプリング機能を使うことで自由にサンプルを作成することができます。サンプリングについてはPCMのサンプリング参照(→P.51)

2つのボイスモード

SHOTに設定することでドラムトラック以外としても使用することができます

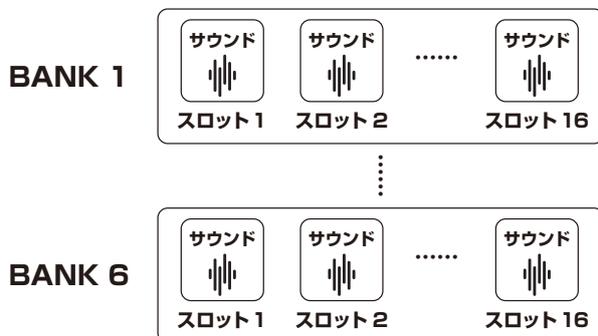
1  +  を回してボイスモードを選択。

SHOT	鍵盤で1つのサンプルを音階をつけて鳴らせます。 最大同時発音数 1
DRUM	鍵盤でドラムキット(または1つのサンプルをスライスしたもの)が鳴らせます。 最大同時発音数 3

PCM のサンプリング

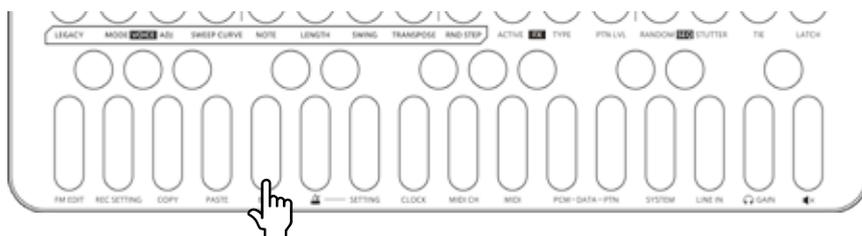
概要

MEGA SYNTHESIS のトラック 6 の PCM 音源には、6 個のバンクごとに 16 個の slots があり、合計 96 個の slots に録音したサンプルを保存することができます。



サンプルを選択する

- 1 ① BANK と ② SAMPLE を回してサンプルを選択。
鍵盤を弾いて音を確認できます。



VOICE MODE が SHOT の時、この鍵盤を弾くと、サンプルのオリジナルの音程 / 長さの音が聴けます。



- ① BANK と ② SOUND の操作は ③ VALUE でも行えます。

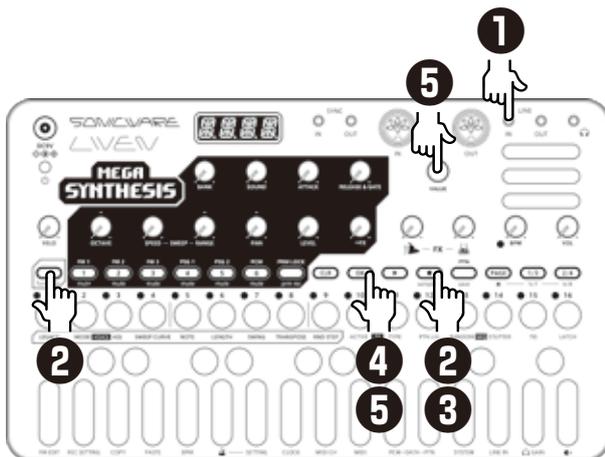
サンプリング — 録音する —

- 1 MEGA SYNTHESIS の LINE IN に録音したい機器の出力を接続する。



・マイクやギターは直接つなぐことができません。ミキサー等の機器を通してライン信号に変えてください。

- 2 + を押す。
 が赤く点滅します。
ステップキーで録音レベルの確認ができます。
(ステップ 12 が -6dB、ステップ 16 が 0dB です)



- 3 もう一度、 を押す。
 が赤く点灯し、信号が入力されると自動的に録音が始まります。



ステップキーが録音経過を示します。
ステップ 16 まで点灯したら、録音が自動的に終了します。

- 4 を押し、 と でサンプルを保存するスロットを選択。
 でも選択できます。
保存する前に、選択したスロットのサンプルを鍵盤で弾いて試聴できます。



- ・録音中に を押すと、即座に録音を終了できます。
- ・操作を中断したい場合は を押ししてください。

- 5 保存するスロットが決まったら、 を押す。

サンプリングの設定

サンプリングでは、以下の設定が使用されます。

オート録音の設定

- 1  +  を押し、
A.R.LV を選択。



- 2  VALUE を回す。

OFF またはオート録音を開始する入力信号のレベルを -60 ~ -20dB に設定できます。

オート録音をオフにした場合、録音待機時に  を押すと録音が始まります。

サンプリング周波数の設定

- 1  +  を押し、S.FRQ を選択。

- 2  VALUE を回して、いずれかを選択。
いずれもサンプリングレートは 8bit です。

サンプル品質	サンプリング周波数	録音可能時間
Low	12kHz	8 秒
Mid	24kHz	4 秒
Hi	48kHz	2 秒



- ・ LINE IN の入力ゲインは、 +  で調整できます。
- ・ LINE IN ゲインの調整については (→ P.82)
- ・ LINE IN 設定で MONO が OFF であってもモノラル録音されます。
- ・ 録音終了後に自動的にサンプルの音量はノーマライズされます。

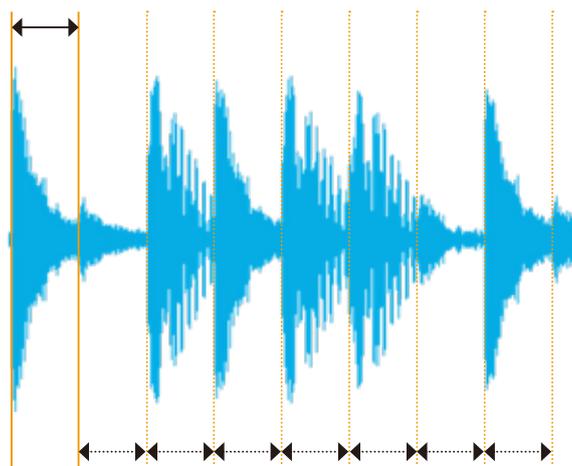
サンプルのスライス

MEGA SYNTHESIS には、1 拍の長さを設定することで、サンプル全体を同じ長さで均等に分割するオートスライス機能があります。

収録されているプリセット PCM サンプルは、ドラムキットサウンドが 6 スライスにアサインされるように初期設定されています。

設定を変更することなくすぐに使うことができます。

この 1 拍の長さを設定することで…



…サンプル全体を同じ長さで均等に分割します。

サンプルのスライス

サンプルをスライスする

1  を押す。

2  BANK と  SOUND でサンプルを選択。

3  +  で DRUM を選択。



4  +  を選択。

スライスの長さの数値が表示されます。



5 一番左の鍵盤 (F) を弾きながら、 VALUE で 1 拍分の長さを設定。

ここで設定した長さでサンプル全体が均等にスライスされます。

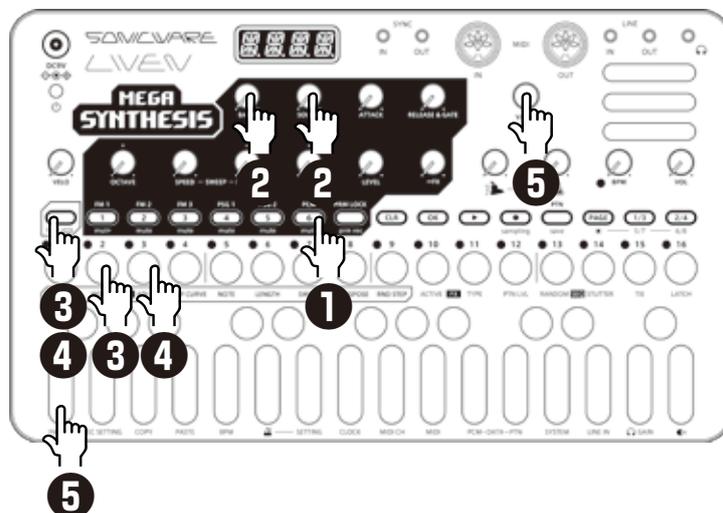
多くの場合、最初の 4 ~ 8 鍵盤が使用できるサウンドになるでしょう。

最初の 2 ~ 3 鍵盤を弾きながら、ちょうど良い長さを探してください。

1 スライスの最長時間は 2 秒です。



-  を押すごとに 175、205、255 に切り替わり、サンプルを 8、6、4 に自動でスライスします。



サンプルのリネーム

サンプルをリネームする

1  の  BANK と  SOUND で、リネームしたいサンプルを選択。

2  +  を押し、S.N.ED を選択。



3  を押す。

4 、 でカーソルを左右に移動、
 を回して文字を選択する。

5  を押す。
ディスプレイに DONE と表示され確定します。



- ・手順 2 で **B.N.ED** を選択すると、バンク名をリネームできます。
 - ・各手順の途中で  を押すとキャンセルできます。
-

サンプルのエクスポート / インポート

録音したサンプルは、MIDI 経由で PC/Mac 等へエクスポート / インポートすることができます。接続については、(→ P.94) をご覧ください。

1 つのサンプルをエクスポートする

1  の  BANK と  SOUND で、エクスポートしたいサンプルを選択。

2  +  PCM-DATA を押し、S.EXP を選択。



3  を押す。



4 MIDI データの受信側を待機状態にする。

5  を押す。



サンプルデータの送信が開始されます。
ステップ LED が進捗状況を示し、
終了すると DONE と表示されます。

1 つのサンプルをインポートする

1  の  BANK と  SOUND で、インポートしたいスロットを選択。

2  +  PCM-DATA を押し、S.IMP を選択。



3  を押す。



4 送信側でデータの送信を開始する。



5 データの受信完了後、SAVE が表示されたら  を押して保存する。

サンプルバンクのエクスポート / インポート

サンプルのバンクをエクスポートする

1  の BANK で、エクスポートしたいサンプルバンクを選択。

2  +  を数回押し、B.EXP を選択。



3  を押す。

4 MIDI データの受信側を待機状態にする。

5  を押す。

サンプルデータの送信が開始されます。
ステップ LED が進捗状況を示し、
終了すると DONE と表示されます。



サンプルのバンクをインポートする

1  の BANK で、インポートしたいサンプルバンクを選択。

2  +  を数回押し、B.IMP を選択。



3  を押す。

4 送信側でデータの送信を開始する。



5 BK.SV と表示されたら  を押す。
ディスプレイに DONE と表示され確定します。



ステップシーケンサーの概要

概要

MEGA SYNTHESIS のステップシーケンサーは、演奏情報やパラメーター情報を格納した**複数のステップ**（シーケンス）を順番に再生していきます。



ステップは**ノート情報、パラメーター情報**を格納しています。

シーケンスは複数のステップをまとめたものです。



シーケンサーはステップ1から順番に再生していきます。

MEGA SYNTHESIS のステップシーケンサーの特長

MEGA SYNTHESIS に搭載されているシーケンサーには下記の特長があります。

3つの入力方式

ステップレコーディング

シーケンサーを停止させた状態で各ステップにノートを記録

リアルタイムレコーディング

鍵盤を演奏しながらノートをステップに記録

ダイレクトレコーディング

シーケンサーの再生中でも直接ステップにノートを記録

自由度の高いシーケンス

最大 128 ステップシーケンス

トラックごとに 1 ~ 128 ステップまで自由にステップ数を設定可能

さまざまなノート長に対応

1 ステップの長さを 1 小節から 32 分音符の長さまで自由に設定可能

シーケンスの作成 — 準備 —

トラックの選択とサウンドの選定

1  ~  のいずれかを押し、シーケンスを作成したいトラックを選択。

2  BANK と  SOUND を回して、使用するサウンドを決める。

 SOUND の操作は  VALUE でも行えます。



-
- ・LIVEN MEGA SYNTHESIS の最大同時発音数はトラックの種類それぞれ以下の通りです。
 - トラック 1、2、3：合計 6 ボイス
 - トラック 4、5：合計 4 ボイス
 - トラック 6：3 ボイス（VOICE MODE を DRUM に設定しているとき）
 - ・最大同時発音数を超えた場合は、優先度の低いトラックのノートからノートオフされます（優先度は FM：トラック 3 > トラック 1、PSG：トラック 5 > トラック 4 の順です。ただし、リリース中の音がある場合は、トラックの優先度に従いリリース中の音が優先してノートオフされます）。
-

シーケンスの作成 ー設定ー

1 ステップのノートの長さを設定する

1  +  を押す。

2  VALUE で、ノートを選択。


VALUE

Note	
1/1	全音符
1/2	2分音符
1/4	付点4分音符
1/4	4分音符
1/8	付点8分音符
1/2T	2分3連符
1/8	8分音符
1/16	付点16分音符
1/4T	4分3連符
1/16	16分音符
1/32	32分音符

シーケンスの長さを設定する

1  +  を押す。

2  VALUE で、長さを選択。


VALUE

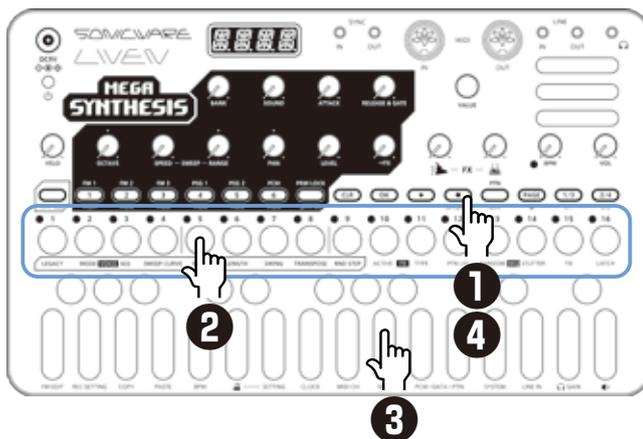
Length
1 ~ 128 (単位: ステップ)

シーケンスの作成 – ステップレコーディング –

ステップレコーディングでは再生を停止した状態でじっくりシーケンスを作成することができます。

基本操作

- 1 停止中に  を押す (赤に点灯)。
- 2 ノートを入力したい位置の \flat ~ \sharp を押す。
現在地のステップ LED が点滅し、ノートが入力されているステップの LED は点灯します。
- 3 鍵盤を押してステップにノートを入力。
再度、同じ鍵盤を押すとステップからそのノートが削除されます。
手順2~3を繰り返しシーケンスを作成します。
- 4  を押しステップレコーディングを終了する。



シーケンスの作成 –ステップレコーディング–

ステップ 17 以降の選択

手順1の後に **PAGE**、**1/3**、**2/4** を押すことでステップ 17 以降を選択できます。

ステップ 1 ~ 16 の選択：1/3 キーを 1 回押す。



ステップ 17 ~ 32 の選択：2/4 キーを 1 回押す。



ステップ 33 ~ 48 の選択：1/3 キーを 2 回押す。



ステップ 49 ~ 64 の選択：2/4 キーを 2 回押す。



ステップ 65 ~ 80 の選択：**PAGE** を押し、**1/3** を 1 回押す。



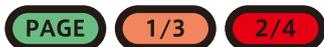
ステップ 81 ~ 96 の選択：**PAGE** を押し、**2/4** を 1 回押す。



ステップ 97 ~ 112 の選択：**PAGE** を押し、**1/3** を 2 回押す。



ステップ 113 ~ 128 の選択：**PAGE** を押し、**2/4** を 2 回押す。



- ・手順2で **1**~**16** を押すと記録されているノートが発音し続けますが仕様です。
- ・**VALUE** でもステップを移動できます。
- ・シーケンスの長さの設定によって、ページキーが有効 / 無効になります。

シーケンスの作成 – ステップレコーディング –

ステップのクリア

- 1 **CLR** + **○** ~ **16** を押す。
ステップレコーディング中は、そのステップのノート情報のみがクリアされます。

ステップのコピー

- 1 ステップレコーディング中に **○** ~ **16** でコピーしたいステップを選択。
- 2 **func** + **0 COPY** を押す。 
- 3 **○** ~ **16** でペーストしたいステップを選択。
- 4 **func** + **0 PASTE** を押す。 
コピー元ステップのノート情報や
パラメータロック情報がコピー先にペーストされます。



・タイ情報はコピーできません。

ステップレコーディング時に自動でステップを移動する (オートステップモード)

ステップレコーディング中、鍵盤を押下するたびに
次のステップへ自動で移動します。

- 1 **func** + **0 SYSTEM** を押し、**A.STP** を選択。 
- 2 オートステップモードの ON / OFF を切り替える。

シーケンスの作成 – ステップレコーディング –

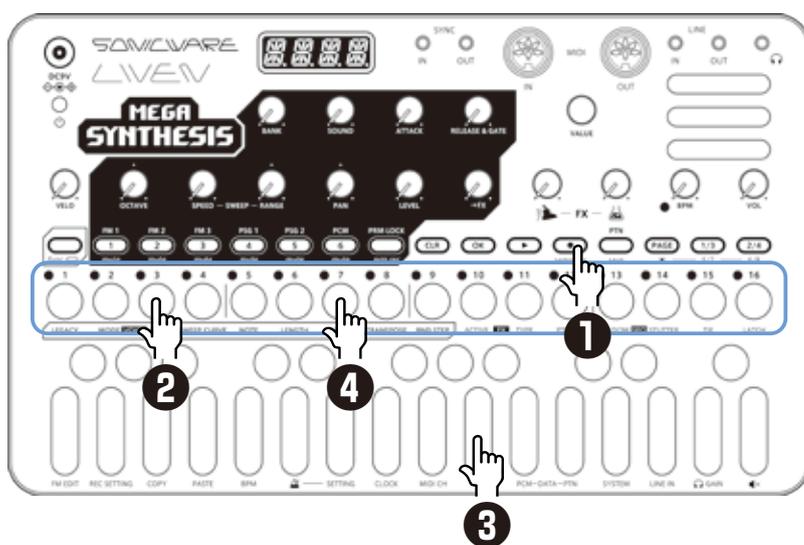
MEGA SYNTHESIS ではタイ付きノート（長音）も入力することができます。

タイ付きノート（長音）の入力を有効にする

- 1 **func** + **TIE** を押す。
キーが赤く点灯し、タイ付きノートの入力が有効になります。

タイ付きノート（長音）を入力する

- 1 停止中に **REC** を押しステップレコーディングを開始する（赤に点灯）。
- 2 ノートを入力開始したい位置の **1** ~ **16** を押す。
- 3 鍵盤を押しつづける。
- 4 ノートを終了したい位置の **1** ~ **16** を押す。
開始ステップから終了ステップまでのタイ付きノートが入力されます。



上の例では STEP3 から始まり STEP7 で終わるノート（A）が入力されます。



- ・手順 4 で **PAGE**、**1/3**、**2/4** を押すことでページをまたぐタイ付きノートを入力することも可能です。
- ・シーケンスの終端から先端へまたぐタイ付きノートは入力できません。

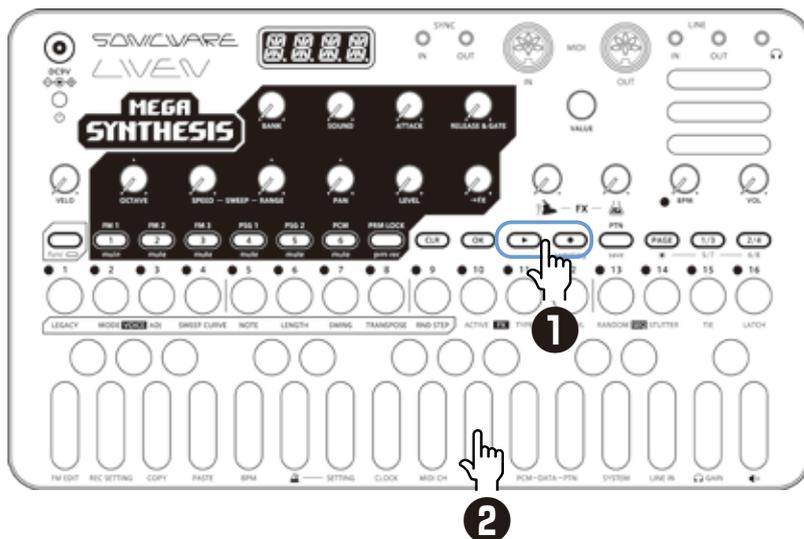
シーケンスの作成 –リアルタイムレコーディング–

リアルタイムに鍵盤演奏しながらシーケンスを作成することができます。

基本操作

1  を押したあと  を押す。

2 パターンが再生されるので
入力したい位置で鍵盤を弾く。



- ・  +  を押してタイ付きノートの入力を有効にすればステップをまたぐ長音も入力できます。

シーケンスの作成 –リアルタイムレコーディング–

メトロノームをオン/ オフする

1  +  を押し、ON/ オフを切替。



メトロノームの音量を調節する

1  +  を押し、VOL を選択。



2  VALUE で、メトロノームの音量を調節。

	Metronome
VALUE	0 ~ 15

プリカウントを設定する

1  +  を押し、PR.CT を選択。



2  VALUE で、プリカウントを変更。

	Metronome
VALUE	OFF、1 ~ 8



- ・プリカウントが設定されている場合、プリカウント後にレコーディングや再生が始まります。
- ・プリカウントを OFF 以外、VOL を 1 以上に設定してメトロノームをオフにすることで、リアルタイムレコーディング時にプリカウントのみ発音させることができます。

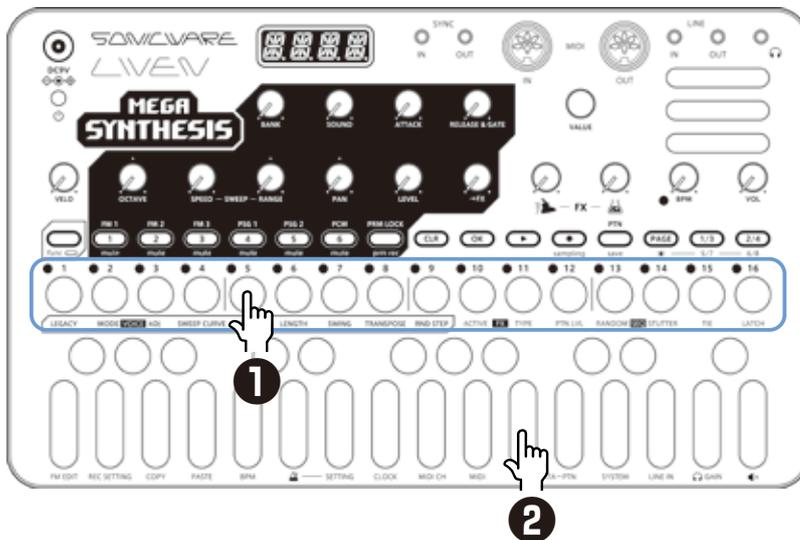
シーケンスの作成 –ダイレクトレコーディング–

ダイレクトレコーディングでは、停止中、再生中どちらの状態でも直接ステップにノートを入力することができます。

特に再生中にノートを直接入力するやり方は、シーケンスをビルトアップしながらパフォーマンスすることに適しています。

基本操作

- 1 ノートを入力したい位置の $\circ_1 \sim \circ_{16}$ を押しながら
- 2 鍵盤を押してステップにノートを入力
手順1, 2は順序が異なってもノートを入力することができます。



シーケンスの作成 –ダイレクトレコーディング–



- ・手順 1 の前に **PAGE**、**1/3**、**2/4** を押すことで STEP17 以降が配置されているページを選択することができます。

ステップ 1 ~ 16 の選択：1/3 キーを 1 回押す。



ステップ 17 ~ 32 の選択：2/4 キーを 1 回押す。



ステップ 33 ~ 48 の選択：1/3 キーを 2 回押す。



ステップ 49 ~ 64 の選択：2/4 キーを 2 回押す。



ステップ 65 ~ 80 の選択：**PAGE** を押し、**1/3** を 1 回押す。



ステップ 81 ~ 96 の選択：**PAGE** を押し、**2/4** を 1 回押す。



ステップ 97 ~ 112 の選択：**PAGE** を押し、**1/3** を 2 回押す。



ステップ 113 ~ 128 の選択：**PAGE** を押し、**2/4** を 2 回押す。



- ・再生中に **PAGE**、**1/3**、**2/4** を押すと表示中のページが固定されます。
OK を押すと解除されます。

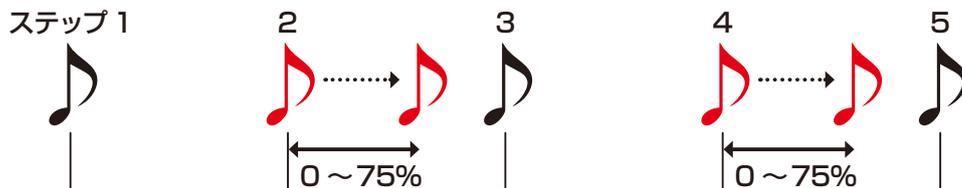
シーケンスの作成 — 設定 —

スイングを設定する

1  +  を押す。

2  VALUE を回して、調整する。

2 つめごとの (2、4、6... 番めの) ステップを後ろにズラします。



トランスポーズ

1  +  を押す。

2  VALUE を回して、キーを変更する。


VALUE

Transpose

-12 ~ 12 (1 で半音変化)



- ・パターンの再生中にキーを変更した場合、再生位置がパターンの先頭に来たときに再生されるキーが変更されます。

パラメーターロック

MEGA SYNTHESIS では、ノブの操作をステップに記録させることができる**パラメーターロック**機能を搭載しています。

時間の経過とともにサウンドを変化させることができ、表現力豊かなパターンの作成に役立ちます。

パラメーターロック情報の入力方法は下記 3 つの方法があります。

ダイレクト入力

⌚ ~ ⌚ を押しながらノブを回して直接入力する基本的な方法

リアルタイム入力

再生中にリアルタイムにノブを操作しその動きを記録する方法

サウンドロック入力

鍵盤を押してステップにノートを記録した時、現在鳴っているサウンド状態をパラメーターロック情報として同時にステップに記録する入力方法

パラメーターロックの基本操作

パラメーターロックを ON にする

- 1  を押す。
 を押すごとに下記のように変化します。

	パラメーターロック OFF	自動でパラメーターは変化しません
	パラメーターロック ON	パラメーターロック情報に基づき自動でパラメーターが変化します
	サウンドロック ON	サウンドロック記録状態 (→ P.74)

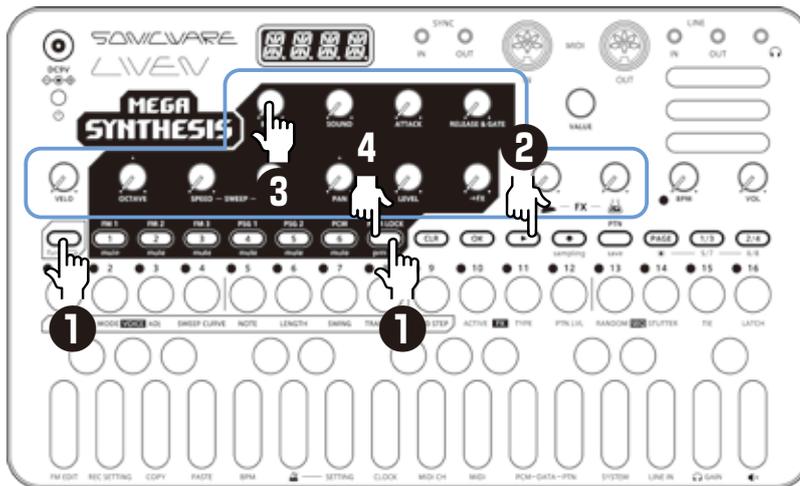
パラメーターロック情報のクリア

- 1  +  を押す。
パラメーターロック情報がクリアされます。

パラメーターロック –リアルタイム入カー

リアルタイム入力をする (パラメーター REC)

- 1  +  を押す (赤に点灯)。
- 2  を押しパターンを再生。
- 3  ノブを操作して記録。
- 4  を押して緑に点灯させてリアルタイム入力終了。

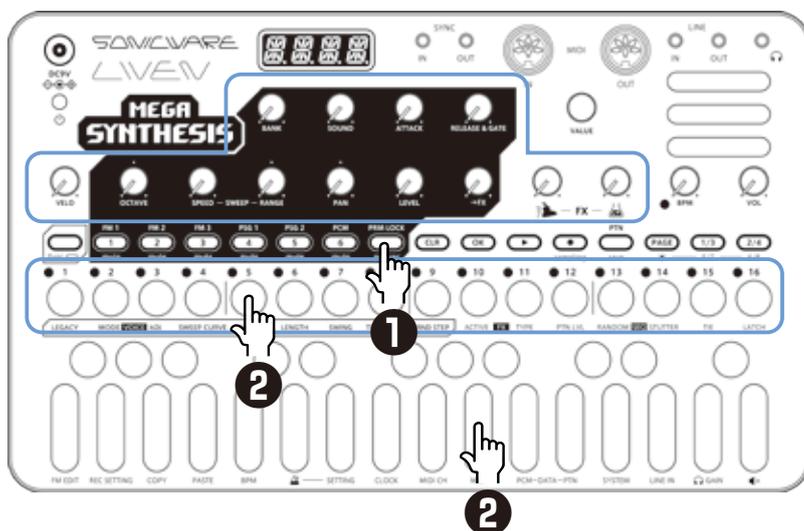


パラメーターロック –サウンドロック入カー

サウンドロックをONにする ノート入力と同時にパラメーターロック情報を記録する

1 **PRM LOCK** を2回押す
(オレンジに点灯)。

2 **1** ~ **16** を押しながら、鍵盤を弾く。



- ・手順2ではノート入力にダイレクトレコーディングを使用していますが、ステップレコーディング、リアルタイムレコーディングでも同様にサウンドロック機能を使うことができます。
- ・サウンドロック機能で記録されるパラメーターロック情報は BANK、SOUND です。

シーケンスエフェクト

MEGA SYNTHESIS は、フレーズのランダムイズが可能な**ランダム**機能、押し
ているステップをリピート再生する**スタッター**機能を搭載しています。

ランダム

- 1  +  を押す。
ON にするとランダムイズされたシーケンスが再生されます。
ランダムを OFF にするには再度  +  を押してください。

ランダム設定

ランダム再生時にランダムイズする最小単位（1 ステップごと、4 ステップごと等）
を設定できます。

- 1  +  を押し、 VALUE で調整する。


VALUE

Randomize Step

OFF, 1, 2, 4, 8, 16, 32 (単位 : ステップ)

OFF にするとランダム再生が ON になってい
てもランダムイズされません

ランダムのオン / オフ設定はパターンに保存され、ランダム設定はトラックごとに
保存できます。

シーケンスエフェクト

スタッター

1  +  を押す。
ON にするとスタッターモードになります。

2  ~  を押す。
押下中のステップだけが再生されます。



スタッターを OFF するには再度  +  を押す。

シーケンスの消去

ステップのクリア

- 1 **CLR** + 1 ~ 16 を押す。
そのステップのノート情報やパラメータロック情報がクリアされます。



- ・ **CLR** を押している間、パラメータロック情報があるステップは赤で点滅します。
- ・ ノートのレコーディング中 ( が赤) は、ノート情報のみ消去されます。
- ・ パラメーターレコーディング中 ( が赤) はパラメーターロック情報のみが消去されます。
- ・ 通常時、または  と  キーが赤に点灯しているときは、ノートとパラメーター情報の両方が消去されます。

シーケンスのノート情報を全てクリアする

- 1 **CLR** + 1 ~ 6 のクリアしたいシーケンスの入ったトラックを押す。



- 2  VALUE で NOTE を選択し **OK** を押す。
シーケンスの全ステップに入っている全ノートがクリアされます。



トラックの音色だけ前回保存した状態に戻す

- 1 **CLR** + 1 ~ 6 の音色を戻したいトラックを押す。

- 2  VALUE を回して、SND を選択し、
OK を押す。



トラックのコピー

トラックを拡張コピーする

作成したシーケンスを複製して2倍の長さにすることができます。

- 1 拡張コピーしたいシーケンスのトラックを  ~  を押して選択。
- 2  +  を押す。
- 3  を押しながら  を回して、2倍に複製する。

トラックを別のトラックにコピーする

- 1 コピーしたいパターンのトラックを  ~  を押して選択。
- 2  +  を押す。 
- 3 ペーストしたいパターンのトラックを  ~  を押して選択。
- 4  +  を押す。 



・トラックのコピーは、同じ音源のトラック間のみ有効です（トラック 1、2、3 間とトラック 4、5 間）。

パターンの保存

各トラックで作成したシーケンスは、パターンとして保存します。

パターンを保存する (またはコピーする)

1  +  を押す。

2  を押す。
DONE と表示され、保存されます。



保存先を変えたい場合、または**パターンをコピー**したい場合は、

1  +  を押す。

2 、、 で保存先バンクを選択。

3  ~  で保存先パターンを選択。
DONE と表示され、保存されます。



・手順 2 で  VALUE でも保存先の選択ができます ( で実行)

・各手順の途中で  を押すとキャンセルできます。

パターンを初期化する

1 初期化したいパターンを選択。
(→ P.79)

2  +  を押す。
CLR と表示され、パターン設定、
ノートとパラメーターロック情報が
全て消去されます。



3 パターンを保存。

パターンのリネーム

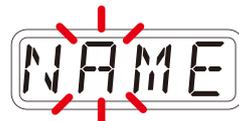
パターンをリネームする

1  +  を数回押し
P.N.ED(Pattern Name EDit) を選択。



2  VALUE でリネームしたいパターンを
選択し  を押す。

3  /  でカーソルを左右に移動、
 VALUE を回して文字を選択する。



カーソル位置は点滅

4  を押す。
リネームが保存され、パターン選択に戻ります。
続けてリネームするには手順2から繰り返してください。
リネームを終えるには  を押してください。



テンポについて

MEGA SYNTHESIS には 2 つの BPM モードがあります。

パターン BPM モード

パターンチェンジした際、パターンに保存されているテンポ情報を使って BPM を再設定します。

グローバル BPM モード

パターンチェンジした際も引き続き現在のグローバル BPM 値に従って動作します。

一定のテンポでジャムセッションを進行したい場合はグローバル BPM モードを、パターンごとにテンポを変えたい場合はパターン BPM モードを選択してください。

BPM モードを設定する

1  +  を押し、設定を変更する。

BPM	
BPM モード	
<i>PTN</i>	パターン BPM モード
<i>GLBL</i>	グローバル BPM モード

BPM の設定は TEMPO を変更するを参照 (→ P.14)

LINE IN の設定

ゲインを変更する

1  +  を押し、GAIN を選択。

GAIN

2  VALUE を回し、ゲインを変更する。


VALUE

Gain	
MUTE	~ 127

モノラル / ステレオを設定する

1  +  を押し、MONO を選択。

MONO

2  VALUE を回し、ON / OFF を変更する。


VALUE

Mono	
ON	モノラル
OFF	ステレオ

エフェクトへのセンド量を設定する

1  +  を押し、→ FX を選択。

-- : FX

2  VALUE を回し、センド量を変更する。


VALUE

FX SEND	
OFF	LINE IN に FX がかかりません。
1 ~ 127	FX へのセンド量を調整します。

外部機器とのクロック同期 ークロック設定ー

概要

LIVEN には下記の同期方法が用意されています。

SYNC

SYNC IN/OUT 端子を使って SYNC 対応機器（Korg 社 Volca シリーズなど）と同期します。

MIDI

MIDI IN/OUT 端子を使って MIDI 対応機器と同期します。

Audio Sync

LINE IN/Headphone OUT 端子を使って Audio Sync 対応機器（Teenage Engineering 社 Pocket Operator シリーズなど）と同期します。

Audio Sync で同期する場合、やり取りするオーディオはモノラルになります。

また、LIVEN はクロックマスターになることも、外部機器からのクロックを受けることもできます。

外部機器とのクロック同期 ークロック設定ー

クロックソースの設定をする

INT (INTernal) に設定した場合、LIVEN はクロックマスターになります。
INT 以外に設定した場合、外部機器がクロックマスターになります。

1  +  を押し、SRC を選択。



2  VALUE を回し、クロックソースを設定する。


VALUE

Clock Source	
INT	LIVEN 内部のクロックを使用します
MIDI	MIDI IN のクロックを使用します
SYNC	SYNC IN のクロックを使用します
LINE IN	LINE IN のクロックを使用します

Audio Sync 出力の設定をする

Audio Sync 出力にはヘッドホン端子を使用します。
そのため、Audio Sync 出力をする場合、下記の設定を行ってください。

1  +  を押し、A.OUT を選択。



2  VALUE を回し、ON を選択。



- ・ヘッドホンのL側から同期信号が、R側からモノラルミックスされたオーディオが出力されます

外部機器とのクロック同期 —クロック設定—

SYNC IN の極性を設定する

1  +  を押し、S.I.P.O を選択。

S.I.P.O

2  VALUE を回し、極性を設定する。


VALUE

Polarity - Sync In	
FALL	同期信号の立ち下がりで同期します
RISE	同期信号の立ち上がりで同期します

SYNC OUT の極性を設定する

1  +  を押し、S.O.P.O を選択。

S.O.P.O

2  VALUE を回し、極性を設定する。


VALUE

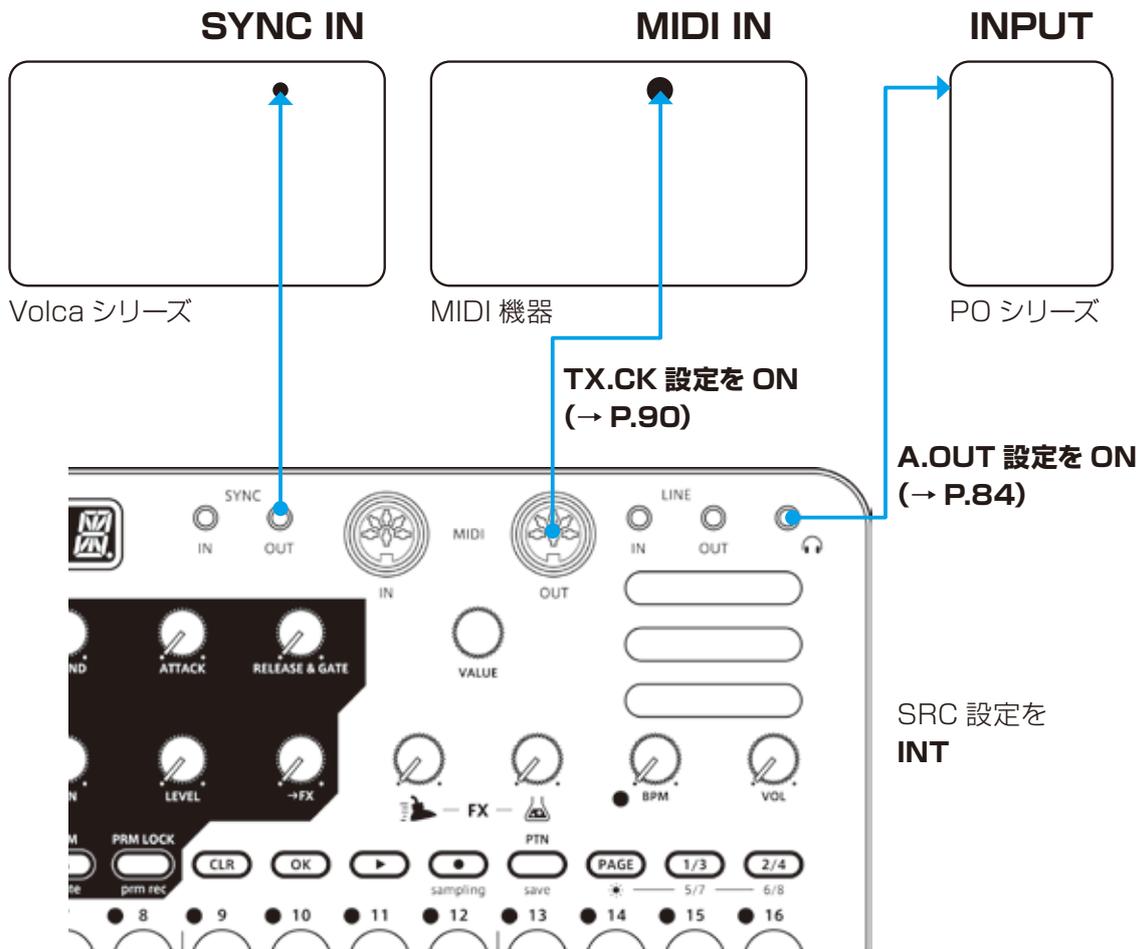
Polarity - Sync In	
FALL	同期信号の立ち下がりで同期します
RISE	同期信号の立ち上がりで同期します



・MIDI クロックの設定については (→ P.90) をご覧ください。

外部機器とのクロック同期 —接続例—

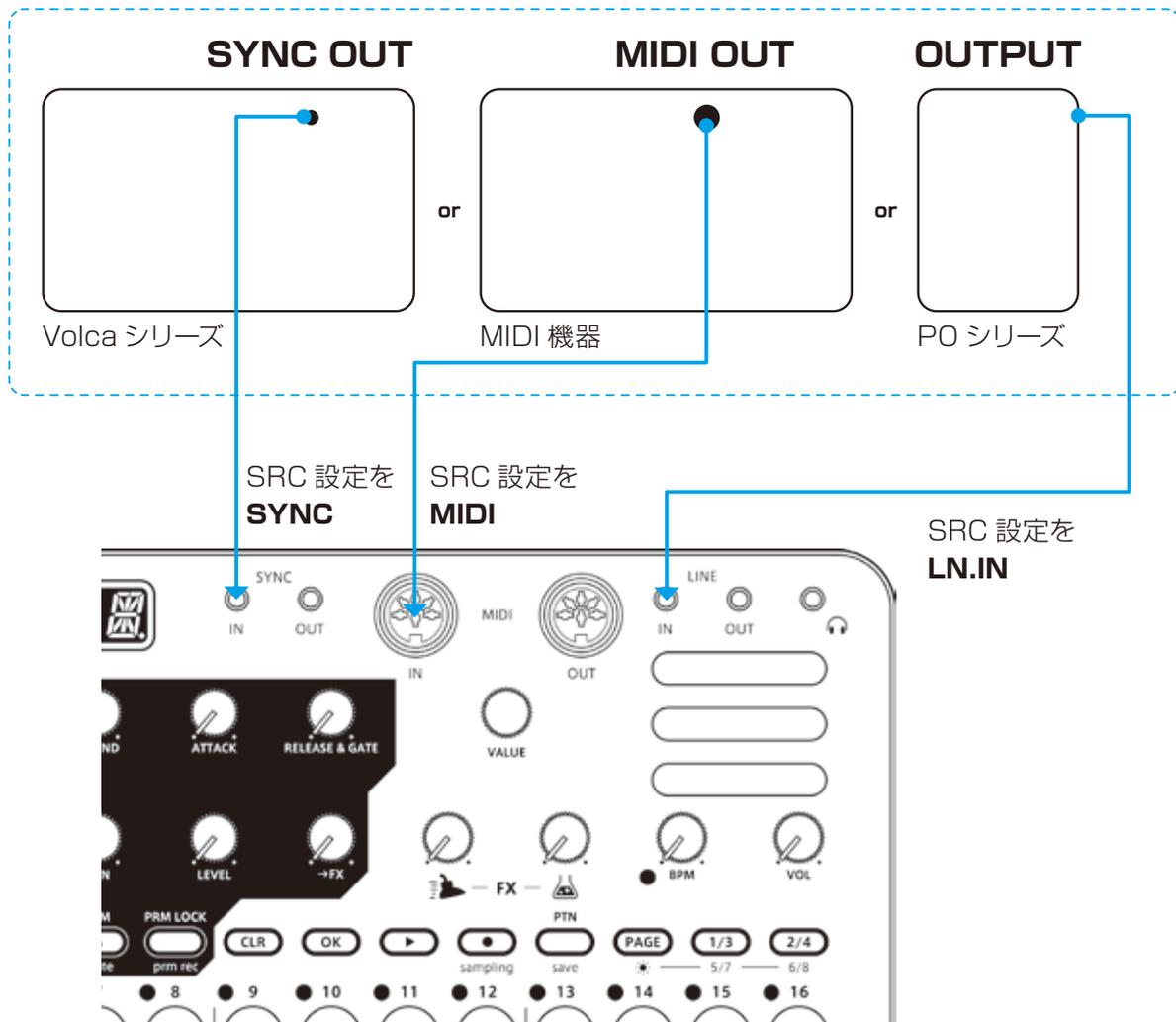
LIVEN がクロックマスターの場合



外部機器とのクロック同期 — 接続例 —

外部機器がクロックマスターの場合

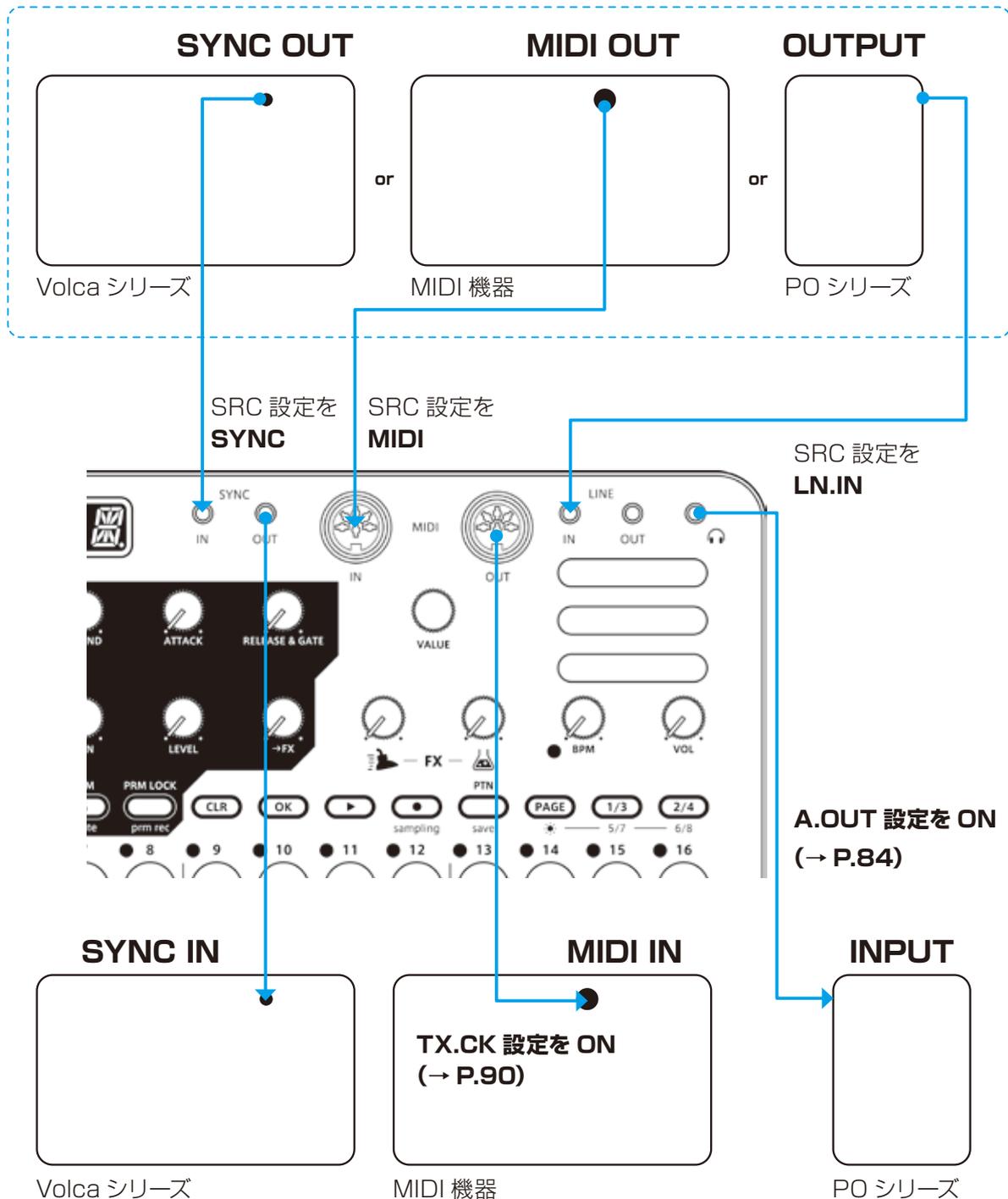
クロックマスター機器はいずれか1つにしてください



外部機器とのクロック同期 —接続例—

クロックマスターである外部機器のクロックを他の端子にブリッジする場合

クロックマスター機器はいずれか1つにしてください



ブリッジ接続をすると、例えばクロックマスターの PO シリーズから、LIVEN に接続された volca や MIDI 機器などジャックの異なる機器を同期させることができます。

MIDI

MIDI 送受信チャンネルを設定する

1  +  を押し、MIDI チャンネルを設定したいトラックを選択。

T 1.CH

2  VALUE を回し、チャンネルを設定する。

T 6.CH


VALUE

MIDI Channel - Track

OFF、CH.01 ~ CH.16

パターン用パラメーターの MIDI チャンネルを設定する

1  +  を押し、PT.CH を選択。

PT.CH

2  VALUE を回し、チャンネルを設定する。


VALUE

MIDI Channel - Pattern

OFF、CH.01 ~ CH.16

選択したトラックにアクセスするための MIDI チャンネルを設定する (オートチャンネル)

1  +  を押し、AT.CH を選択。

AT.CH

2  VALUE を回し、チャンネルを設定する。


VALUE

MIDI Channel - Auto

OFF、CH.01 ~ CH.16

MIDI

鍵盤キーを弾いたときに出力される MIDI チャンネルを設定する

1  +  を押し、O.CH を選択。

O.CH

2  VALUE を回し、設定する。


VALUE

MIDI Channel - Out

TRCK (Track)、AUTO

コントロールチェンジの送信を ON/OFF する

1  +  を押し、TX.CC を選択。

TX.CC

2  VALUE を回し、ON/OFF を設定する。


VALUE

Control Change

ON、OFF



・コントロールチェンジの受信は常に有効です。

MIDI クロックの出力を ON/OFF する

1  +  を押し、TX.CK を選択。

TX.CK

2  VALUE を回し、ON/OFF を設定する。


VALUE

MIDI Clock

ON、OFF

MIDI

MIDI OUT の設定をする

1  +  を押し、M.OUT を選択。

M.OUT

2  VALUE を回し、MIDI OUT を設定する。


VALUE

MIDI OUT
OUT、THRU

MIDI コマンドの送受信の設定をする

1  +  を押し、M.CMD を選択。

M.CMD

2  VALUE を回し、MIDI コマンドを設定する。


VALUE

MIDI Command	
OFF	送受信しない
Rx	受信のみ
Tx	送信のみ
RxTx	送受信する

アクティブセンシングの送信の ON/OFF を設定する

1  +  を押し、TX.AS を選択。

TX.AS

2  VALUE を回し、ON/OFF を設定する。


VALUE

Active Sensing - Transmit
ON、OFF

MIDI

アクティブセンシングの受信の ON/OFF を設定する

1  +  を押し、RX.AS を選択。

RX.AS

2  VALUE を回し、ON/OFF を設定する。


VALUE

Active Sensing - Receive

ON、OFF

プログラムチェンジの送受信チャンネルの設定をする

1  +  を押し、PC.CH を選択。

PC.CH

2  VALUE を回し、プログラムチェンジチャンネルを設定する。


VALUE

Program Change - Channel

AUTO CH.01 ~ CH.16

プログラムチェンジの送信を ON/OFF する

1  +  を押し、TX.PC を選択。

TX.PC

2  VALUE を回し、ON/OFF を設定する。


VALUE

Program Change - Transmit

ON、OFF

MIDI

プログラムチェンジの受信を ON/OFF する

1  +  を押し、RX.PC を選択。



2  VALUE を回し、ON/OFF を設定する。

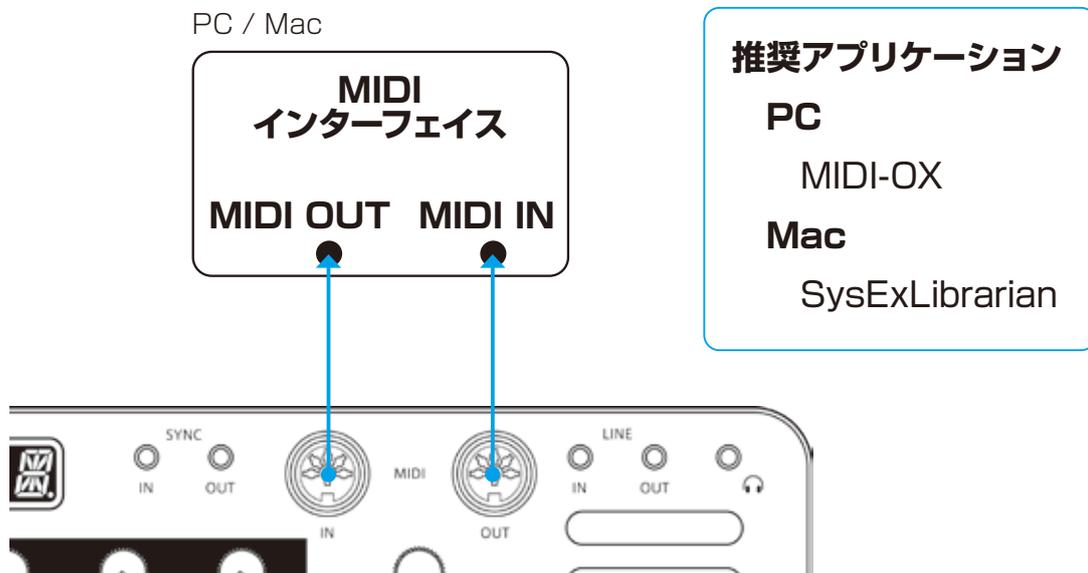

VALUE

Program Change - Recieve

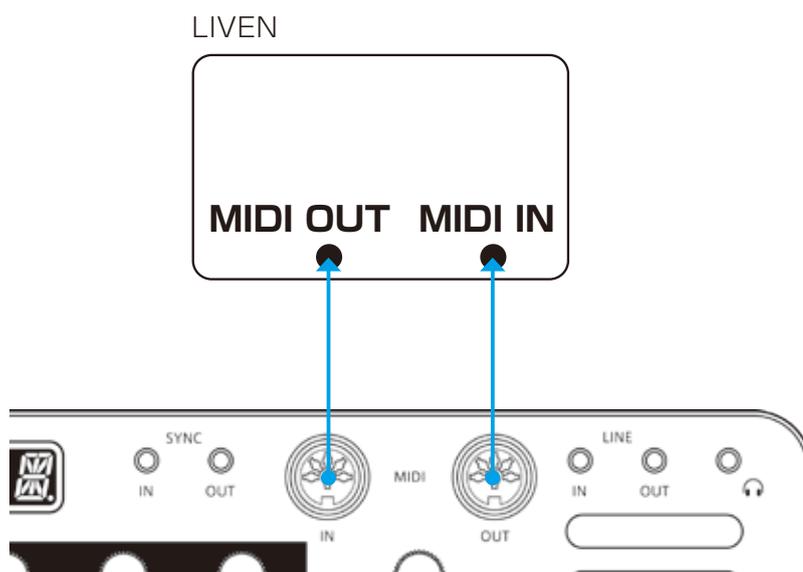
ON、OFF

ユーザーデータのエキスポート・インポート

接続について – PC/Mac とエキスポート・インポートする場合–



接続について –もう一台のLIVENとエキスポート・インポートする場合–



ユーザーデータのエクスポート・インポート

1つのパターンをエクスポートする

1 エクスポートしたいパターンを選択する。(→ P.13)

2  +  を押し、P.EXP を選択。



3 MIDI データの受信側を待機状態にする。

4  を押す。



・  でキャンセルできます。

1つのパターンをインポートする

1 通常モードにし、送信側でデータの送信を開始する。



・受信したパターンは自動で保存されません。必要に応じてパターンを保存してください。(→ P.79)

ユーザーデータのエクスポート・インポート

ユーザーデータを丸ごとバックアップする

1  + POWER スイッチを押し、MEGA SYNTHESIS を起動する。

2  VALUE を回し、EXPT を選択する。



3  を押す。



- ・ステップ LED が進行状況を示します（ から順々に点灯していき、 が全て点灯したら転送完了）。
 - ・ でキャンセルできます。
 - ・バックアップデータサイズは 17,476,311 バイトです。
 - ・データサイズが異なる場合はバックアップに失敗している可能性があるの
で、手順③の前に  を押しながら  VALUE を回して、通信間隔を大きくし
てください（初期値は 0 です）。
-

ユーザーデータのエクスポート・インポート

ユーザーデータを復元する

1  + POWER スイッチを押し、MEGA SYNTHESIS を起動する。

2  VALUE を回し、IMPT を選択する。



3  を押す。受信待機状態になります。
送信側でエクスポートを実行してください。

4 受信完了後にディスプレイに SAVE が表示され、
 を押すと受信されたデータが復元されます。



-
- ・ ステップ LED が進行状況を示します（ から順々に点灯していき、 が全て点灯したら転送完了）。
 - ・  でキャンセルできます。
-

システム設定

バッテリーの種類を設定する

1  +  を押し、BATT を選択。

BATT

2  VALUE を回し、バッテリーの種類を選択する。


VALUE

Battery	
ALKL	アルカリ乾電池
NIMH	ニッケル水素充電電池
LTHM	リチウム乾電池



- ・本体の使用時間に影響するため、正しく設定してください。
- ・充電式電池の種類によっては、実際より残量が多く表示される場合があります。

オートパワーオフの設定をする

1  +  を押し、A.PWR を選択。

A.PWR

2  VALUE を回し、オートパワーオフ時間を選択する。


VALUE

Auto Power	
OFF	オートパワーオフしない
0.5H	操作が無くなってから30分後にオートパワーオフを行います
1H	操作が無くなってから1時間後にオートパワーオフを行います
3H	操作が無くなってから3時間後にオートパワーオフを行います
6H	操作が無くなってから6時間後にオートパワーオフを行います

システム設定

ミュートモードを変更する

1  +  を押し、MT.MD を選択。



2  VALUE を回し、ミュートモードを変更する。

MT.MD	
SND	トラックのすべてのサウンドをミュートします。
SEQ	トラックのシーケンサーに入力されたノートのみミュートします。鍵盤や外部 MIDI ノートでの演奏が可能です。また、パラメータロック情報も演奏に反映されます。

マスターチューンを設定する

1  +  を押し、TUNE を選択。



2  VALUE を回し、マスターチューンを選択する。


VALUE

Master Tune
-75 ~ 0 ~ +75 (単位: Cent)

ヘッドフォンのゲインを設定する

1  +  を押す。

Headphone Gain	
LOUD	より大きな出力
NORM	工場出荷時
SOFT	より小さな出力

システム設定

ノブの動きの設定をする

1  +  を押し、ノブ操作時にラッチ処理をするか設定する。

Latch		
OFF	Jump	ノブを操作したときに直ちにパラメーターが反映されます
ON	Latch	ノブの位置がパラメーター値に来るまではパラメーターが変化せず、ノブがパラメーター値に来た後は追従します



- ・ Latch の場合、ノブの位置とパラメーター値が左右のどちらにどの程度離れているかわかるようディスプレイのドットがアニメーションします。パラメーター値がノブ位置より小さい時はドットが左に流れるように点灯、大きい時は右方向に点灯します。値が離れているほど速く流れます。

システム設定

工場出荷状態に戻す (ファクトリーリセット)

- 1 **4** + **POWER** スイッチを長押し、
MEGA SYNTHESIS を起動する。



- 2 **OK** を押す。
ステップ LED で進行状況を表し、ディスプレイに
OK と表示されたら完了です。



- ・ **CLR** でキャンセルできます。

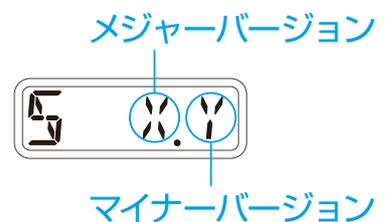
- ・ サンプル波形は工場出荷状態に戻りませんので、弊社ホームページよりサンプル波形データをダウンロードしてからインポートしてください。

システムのバージョンを確認する

- 1 **3** + **POWER** スイッチを長押し、
MEGA SYNTHESIS を起動する。



- 2 **PAGE**、**1/3**、**2/4** を押して確認する。



Firmware Version		
PAGE	P X.Y	プリセットバージョン
1/3	5 X.Y	システムバージョン
2/4	8 X.Y	ブートバージョン



- ・ もう一度同じ **PAGE**、**1/3**、**2/4** を押すと、ビルド番号が表示されます。

システム設定

ファームウェアをアップデートする

- 1  + **POWER** スイッチを長押し、
MEGA SYNTHESIS を起動する。



- 2 PC / Mac からファームウェアを送信する
(Sys.Ex データ)。



- ・ステップ LED がデータ送信の進行状況を表します（ から順々に点灯していき、 ~  が全て点灯したら転送完了です）。

- 3 受信が完了したら  キーを押して
アップデートを実行する。



- ・アップデートが正常に行われた場合はディスプレイに OK と表示されます(異常があった場合エラーコードが表示されます)。

- 4 本体を再起動する。



- ・新品の電池もしくは AC アダプターをご使用ください。
- ・ファームウェアのアップデート中は、絶対に電源を切らないでください。
- ・ でアップデートをキャンセルし、通常起動します。

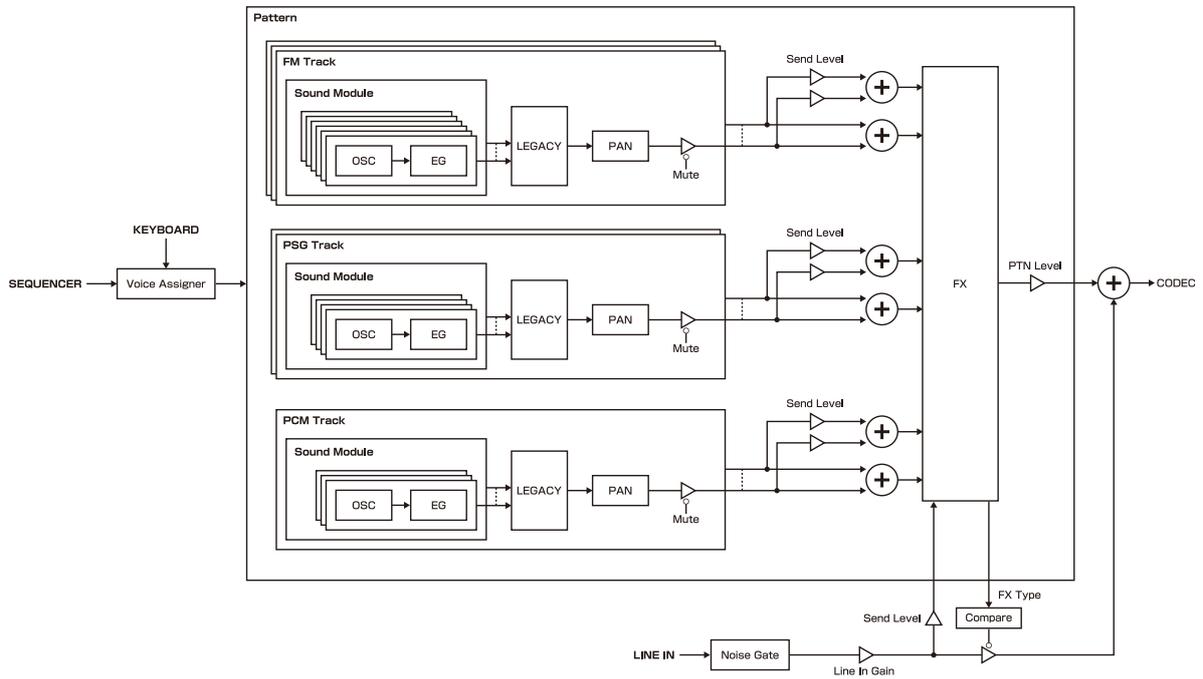
システム設定

エラーコード一覧

ER.10	システムエラー
ER.11	Low Battery
ER.20	データ受信エラー
ER.21	不正データ
ER.22	アップデート不要 (Boot)
ER.30	アップデート失敗

付録

図 1 サウンドアーキテクチャ



仕様

シンセエンジン	<p>FM サウンド・モジュール [トラック 1, 2, 3]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4 オペレーター - 8 アルゴリズム ・最大同時発音数 6 ボイス ・FM エディット・モードでの音色エディット <p><ボイスモード></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポリフォニックモード ・モノモード (グライド時間 調整可能) ・レガートモード (グライド時間 調整可能) ・アルペジエーターモード (Up, Down, UpDown, DownUp, Up&Down, Down&Up, Up+1, Up+2, Down-1, Down-2, Random, Play Order) <p>PSG サウンド・モジュール [トラック 4, 5]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・11 タイプ <p>矩形波</p> <p>ノイズ (Low/Mid/High) ▶ 矩形波</p> <p>パルス波</p> <p>ノイズ (Low/Mid/High) ▶ パルス波</p> <p>ノイズ (Low/Mid/High)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最大同時発音数 4 ボイス <p><ボイスモード></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポリフォニックモード ・モノモード (グライド時間 調整可能) ・レガートモード (グライド時間 調整可能) ・アルペジエーターモード (Up, Down, UpDown, DownUp, Up&Down, Down&Up, Up+1, Up+2, Down-1, Down-2, Random, Play Order) <p>PCM サウンド・モジュール [トラック 6]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8bit - 12kHz/24kHz/48kHz(切替式) リニア PCM サンプルング (モノラル) ・1 サンプル最大 8 秒のサンプルング (12kHz) または 最大 4 秒 (24kHz)、2 秒 (48kHz) ・入力レベルによるオートスタート・サンプルング機能 (入力レベル設定可能) ・オートスライス機能 (スライス数 または 1 スライスの長さによる均等分割) ・最大同時発音数 3 ボイス (ワンショットモード時は 1 ボイス) ・96 サンプル・メモリスロット (16 × 6 バンク) ・サンプルのスロット単位またはバンク単位のインポート / エクスポート (MIDI 経由) <ul style="list-style-type: none"> ※ PC/Mac からのオーディオファイルのインポートには対応していません。 <p><ボイスモード></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドラムモード (ドラムキット演奏) ・ワンショットモード (ボン出し、クロマチック演奏) <p>< SWEEP ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・SWEEP (スピード、レンジ、カーブを調整可能)
エフェクト	<p>トラック毎にエフェクトへのセンド量の調整可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Send Delay ・Insert Delay ・Reverb ・Crusher ・Distortion

仕様

エフェクト	<ul style="list-style-type: none"> ・ Compressor ・ Low pass filter ・ High pass filter ・ Isolator ・ Remix performance effect
シーケンサー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 6トラック ・ 最大 128 ステップ ・ 128 パターン ・ ノート長 1/1 ~ 1/32 ・ リアルタイム / ノンリアルタイム・レコーディング ・ ステップへの直接ノート入力 ・ ロングノート・タイに対応 ・ メトロノーム、プリカウント機能 ・ ステップのコピー&ペースト機能 ・ トラックのコピー&ペースト機能 ・ シーケンスの拡張コピー機能 ・ トランスポーズ機能 ・ Swing 機能 ・ パターン BPM / グローバル BPM を設定可能 ・ パターン・チェーン再生機能 (ループ再生可能) ・ トラック・レベル / パンを調整可能 ・ ステップ毎にパラメーター設定を記録できる Parameter Lock 機能 ・ ステップ毎にサウンド設定を記録できる Sound Lock 機能 ・ ステップ毎に発音確率を 25 ~ 100% に設定可能 ・ ステップをランダムに再生する RANDOM 機能 ・ 押しているステップのみを再生する STUTTER 機能
MIDI	<ul style="list-style-type: none"> ・ ノート、コントロールチェンジ、クロック入出力 ・ ユーザー・データのインポート / エクスポート ・ ファームウェアのアップデート
本体	<p><鍵盤> 27 鍵盤 (ホールド機能付)</p> <p><ノブ> <ul style="list-style-type: none"> ・ 15 個のフィジカル・コントロールノブ (サブパラメーター調整時に便利な現在値にノブの物理位置が到達するまで音色変化を行わない LATCH 機能付) ・ 1 個のフィジカル・エンコーダー (ファインコントロール可能) </p> <p><オーディオ入力> <ul style="list-style-type: none"> ・ LINE IN (ステレオ・ミニジャック) / PO シリーズ互換オーディオ SYNC IN 機能付 </p> <p><オーディオ出力> <ul style="list-style-type: none"> ・ ステレオ LINE OUT (ステレオ・ミニジャック) ・ ヘッドホン・アウト (ステレオ・ミニジャック) / PO シリーズ互換オーディオ SYNC OUT 機能付 ・ 内蔵スピーカー </p> <p><端子類> <ul style="list-style-type: none"> ・ MIDI IN 端子 (DIN 型) ・ MIDI OUT 端子 (DIN 型) ・ SYNC IN 端子 (モノラル・ミニジャック) ・ SYNC OUT 端子 (モノラル・ミニジャック) </p>

仕様

本体	<p><外形> 297mm (W) × 176mm (D) × 48mm(H)</p> <p><重量> 約 790g</p> <p><電源> ・DC9V 出力 AC アダプター (1A 以上、EIAJ3 規格 内径 1.7mm 外径 4.75mm、センター +) ・単三電池x 6 本 ※電源アダプター、電池は付属しません。</p>
付属品	<p>・保証書 ・FM サウンド・エディット用オーバーレイシート</p>